

公立大学法人青森公立大学

令和4年度業務実績報告書

(案)

令和5年6月

公立大学法人青森公立大学

# 目 次

	ページ
◎法人の概要	
第1 基本情報	1
第2 組織・役員・教職員情報	1
第3 学生に関する情報	1
第4 主な資産（土地・建物）	2
第5 理事会等の開催状況	4
第6 2023年度（令和5年度）青森公立大学入学者選抜実施状況	8
第7 2022年度（令和4年度）青森公立大学卒業・修了者就職状況	13
第8 公立大学法人青森公立大学 組織図	15
第9 公立大学法人青森公立大学 役員・部局長・審議会名簿	16
◎業務実績	
第1 全体評価（全体的実施状況）	18
第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置	
1 教育に関する目標を達成するための措置	19
2 研究に関する目標を達成するための措置	29
第3 地域貢献に関する目標を達成するための措置	33
第4 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置	38
第5 経営・財務内容の改善に関する目標を達成するための措置	40
第6 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標を 達成するための措置	43
第7 その他業務運営に関する重要目標を達成するための措置	45

## ◎法人の概要

### 第1 基本情報

- 1 法人名： 公立大学法人青森公立大学
- 2 所在地： 青森県青森市大字合子沢字山崎153番地4
- 3 設立団体： 青森市
- 4 設立年月日： 平成21年4月1日
- 5 沿革：

平成5年4月	青森地域広域事務組合を設置者として青森公立大学開学
平成9年4月	青森公立大学大学院経営経済学研究科(修士課程)開設
平成10年4月	青森公立大学地域研究センター開設
平成17年12月	青森駅前再開発ビル(アウガ)に「まちなかラボ」開設
平成18年4月	経営経済学科を経営学科、経済学科、地域みらい学科に改編
平成19年4月	大学院経営経済学研究科(修士課程)を区分制博士課程に課程変更
平成21年4月	公立大学法人へ移行
”	教職課程(高校商業・高校公民1種免許及び専修免許)を開設
平成23年4月	青森公立大学地域連携センター開設

### 第2 組織・役員・教職員情報

- 1 組織図： 15頁参照
- 2 役員名簿： 16, 17頁参照
- 3 教職員数： 常勤職員数 64名 (前年度 67名 (3減))  
(令和4年5月1日現在)  
※学長(教授兼務)を除く

内訳：教員職員	39名 (教授：16名 准教授：10名 講師：7名 教育担当特別教授：5名 特任教授：1名)
事務職員	25名 (プロパー職員：19名 青森市からの出向者：3名 研究員：1名 学芸員：2名)

平均年齢 48.4歳

非常勤職員数	70名
内訳：非常勤講師	38名
事務職員	32名 (嘱託職員：13名 臨時職員：19名)

### 第3 学生に関する情報

- 1 学部等の構成： 経営経済学部 経営学科・経済学科・地域みらい学科  
経営経済学研究科 経営経済学専攻 博士前期課程・博士後期課程
- 2 学生数：

経営経済学部	1,281名	〔	経営学科	540名
			経済学科	552名
			地域みらい学科	189名
経営経済学研究科	14名	〔	博士前期課程	11名
			博士後期課程	3名
合計	1,295名			

(令和4年5月1日現在)

## 第4 主な資産

### 1 土地

所在地	現況地目	地積(㎡)
青森市大字合子沢字山崎 1 5 2 番 6	原野	178,176.00
青森市大字合子沢字山崎 1 5 2 番 8	原野	10,408.00
青森市大字合子沢字山崎 1 5 2 番 9	原野	35,585.00
青森市大字合子沢字山崎 1 5 3 番 1	原野	56,381.00
青森市大字合子沢字山崎 1 5 3 番 2	原野	11,020.00
青森市大字合子沢字山崎 1 5 3 番 3	原野	16,085.00
青森市大字合子沢字山崎 1 5 3 番 4	原野	26,230.00
青森市大字合子沢字山崎 1 5 3 番 6	原野	5,644.00
青森市大字合子沢字山崎 1 5 3 番 8	原野	6,051.00
青森市大字合子沢字山崎 1 5 6 番 4 6	原野	107.00
青森市大字合子沢字山崎 1 5 6 番 4 7	原野	894.00
青森市大字合子沢字山崎 1 5 6 番 4 8	原野	1,500.00
青森市大字合子沢字山崎 1 8 6 番 3 6	原野	31,483.00
青森市大字合子沢字山崎 1 8 6 番 1 0 8	原野	3,988.00
青森市大字合子沢字山崎 1 8 6 番 1 0 9	原野	3.65
青森市大字合子沢字山崎 1 8 6 番 1 1 0	原野	13.00
青森市大字合子沢字山崎 1 8 6 番 1 1 2	原野	12,948.00
青森市大字合子沢字山崎 1 8 6 番 1 1 4	原野	950.00
青森市大字合子沢字山崎 2 2 0 番 2	原野	2,592.00
青森市大字合子沢字山崎 2 2 0 番 8 6	原野	3,371.00
青森市大字合子沢字山崎 2 2 0 番 1 1 0	原野	1,381.00
青森市大字合子沢字山崎 2 2 0 番 1 1 1	原野	950.00
青森市大字合子沢字山崎 2 2 0 番 1 1 2	原野	380.00
青森市大字合子沢字山崎 2 2 0 番 1 1 3	原野	1,228.00
青森市大字合子沢字山崎 2 2 0 番 1 1 4	原野	1,465.00
青森市大字合子沢字山崎 2 2 2 番 2	原野	2,176.00
青森市大字合子沢字山崎 2 2 3 番 2	原野	1,264.00
青森市大字合子沢字山崎 2 2 3 番 5	原野	2.25
青森市大字合子沢字山崎 3 2 4 番 1	原野	2,064.00
青森市大字合子沢字山崎 3 2 4 番 2	原野	675.00
青森市大字横内字桜峰 1 2 2 番 1 5 5	山林	4,384.00
青森市大字横内字桜峰 1 2 2 番 2 8 3	山林	848.00
青森市大字雲谷字山吹 9 2 番 2 1	原野	40,064.00
青森市緑一丁目 8 番 9	宅地	1,803.29
青森市緑一丁目 1 3 番 6	宅地	1,038.57
青森市緑二丁目 1 7 番 4	宅地	1,783.28
青森市桂木三丁目 2 5 番 3 2	宅地	670.96
	合 計	465,607.00

## 2 建物

種別	所在地	構造	延床面積(㎡)
校舎棟	青森市大字合子沢字山崎 1 5 3 番地 4 ほか	鉄筋コンクリート造 陸屋根 5階建	13,769.08
体育館棟	青森市大字合子沢字山崎 1 5 2 番地 9	鉄筋コンクリート造 陸屋根 2階建	3,610.92
大学院棟	青森市大字合子沢字山崎 1 5 3 番地 1 ほか	鉄筋コンクリート造 陸屋根 3階建	2,876.78
交流会館	青森市大字合子沢字山崎 1 5 3 番地 1 ほか	鉄筋コンクリート造 陸屋根 3階建	4,414.22
交流会館講堂	青森市大字合子沢字山崎 1 5 2 番地 6 ほか	鉄筋コンクリート造 陸屋根 3階建	1,935.67
国際交流ハウス	青森市大字雲谷字山吹 9 2 番地 2 1	木造亜鉛メッキ銅板葺 2階建	1,679.00
国際芸術センター青森	青森市大字合子沢字山崎 1 5 3 番地 1 ほか	鉄筋コンクリート造 陸屋根 2階建	3,604.88
教員宿舎 共同住宅 1 号棟	青森市緑一丁目 8 番地 9	鉄筋コンクリート造 陸屋根 2階建	1,961.60
教員宿舎 共同住宅 2 号棟	青森市緑二丁目 1 7 番地 4	鉄筋コンクリート造 陸屋根 2階建	1,076.20
教員宿舎 共同住宅 3 号棟	青森市桂木三丁目 2 5 番地 3 2	鉄筋コンクリート造 陸屋根 2階建	587.52
教員宿舎 共同住宅 4 号棟	青森市緑一丁目 1 3 番地 6	鉄筋コンクリート造 陸屋根 2階建	824.88
教員宿舎 学長舎	青森市緑二丁目 1 7 番地 4	木造亜鉛メッキ銅板葺 平家建	194.40
		合 計	36,535.15

## 第5 理事会等の開催状況

### 1 理事会

開催日	審議事項
第1回 2022年6月17日 [持回開催]	議案第1号 研究職員の退職について
第2回 2022年6月28日	議案第2号 令和3年度事業年度評価(業務実績報告書)について 議案第3号 令和3年度決算について 議案第4号 教員職員の採用について
第3回 2022年10月12日 [持回開催]	議案第5号 事務職員の採用について
第4回 2022年12月22日	議案第6号 令和5年度当初予算編成方針について 議案第7号 公立大学法人青森公立大学職員給与規程及び公立大学法人青森公立大学役員報酬規程の一部を改正する規程の制定について 議案第8号 公立大学法人青森公立大学職員就業規則の一部を改正する規則の制定について 議案第9号 教員職員の昇任について 議案第10号 研究職員の採用について
第5回 2023年2月7日 [持回開催]	議案第11号 事務職員の退職について
第6回 2023年3月28日	議案第12号 令和5年度年度計画について 議案第13号 令和5年度当初予算について 議案第14号 青森公立大学経営経済学部長の選考について 議案第15号 青森公立大経営経済学研究科長の選考について 議案第16号 青森公立大学図書館長の選考について 議案第17号 青森公立大学地域連携センター長の選考について ※議案第17号は、会議の場で撤回された。 議案第18号 教員職員の昇任について 議案第19号 教員職員の退職について
第7回 2023年3月31日 [持回開催]	議案第20号 青森公立大学学長代行の選任について

## 2 経営審議会

開催日	審議事項
第1回 2022年6月23日	① 令和3年度事業年度評価(業務実績報告書)について ② 令和3年度決算について
第2回 2022年10月12日 [持回開催]	① 事務職員の採用について
第3回 2022年12月20日	① 令和5年度当初予算編成方針について ② 公立大学法人青森公立大学職員給与規程及び公立大学法人青森公立大学役員報酬規程の一部を改正する規程の制定について ③ 公立大学法人青森公立大学職員就業規則の一部を改正する規程の制定について ④ 研究職員の採用について
第4回 2023年3月24日	① 令和5年度年度計画について ② 令和5年度当初予算について

### 3 教育研究審議会

開催日	審議事項
第1回 2022年4月20日	① 2022年度地域連携センター事業について ② 青森公立大学大学院特待奨学生の継続審査結果について ③ 青森公立大学大学院特待奨学生の新規候補者の審査委員会設置について
第1回【臨時】 2022年5月16日 [持回開催]	① 2022年度図書予算配分(案)について ② 既修得単位の認定について ③ 教員職員の採用に係る業績審査結果について ④ 教員職員の公募について
第2回 2022年6月15日	① 令和3年度業務実績報告書について ② 令和3年度決算について ③ 2022年度アーティスト・イン・レジデンス事業(公募型)における候補アーティストの選定案について ④ 2018(H30)年度大学評価(認証評価)に対する改善報告書について ⑤ 教員職員の公募について
第2回【臨時】 2022年7月19日 [持回開催]	① 青森公立大学大学院特待奨学生審査結果について ② 他の大学院等における既得単位等取扱規程の制定について
第3回 2022年9月21日	① 2023年度国際芸術センター青森事業計画案について ② 大学院運営会議要綱の制定について ③ 2022年度戦略的研究助成事業(公募型)の申請について
第3回【臨時】 2022年10月26日 [持回開催]	① 教員職員の採用に係る業績審査結果について ② 教員職員の公募について
第4回 2022年12月14日	① 学部長候補者推薦委員会の設置について ② 研究科長候補者推薦委員会の設置について ③ 2023年度学事暦について ④ 令和5年度当初予算編成方針について ⑤ 博士学位論文本審査の審査結果の認定について ⑥ 学位論文執筆認定審査願の提出に係る認定審査委員会の設置について ⑦ 長期履修申請について(研究科) ⑧ 教員職員の採用に係る業績審査結果について ⑨ 教員職員の公募について ⑩ 教員職員の昇任について ⑪ 特任教授の再任について ⑫ 教育担当特別教授の再任について ⑬ 研究職員の採用について
第4回【臨時】 2023年1月16日 [持回開催]	※報告事項のみ



開催日	審議事項
第5回 2023年2月15日	① 2023年度大学院学事暦について
第5回【臨時】 2023年3月8日	① 令和5年度年度計画について ② 令和5年度当初予算について ③ 青森公立大学大学院特待奨学生継続審査の審査委員会設置について ④ 教員職員の採用に係る業績審査結果について ⑤ 教員職員の昇任に係る業績審査結果について ⑥ 教育研究審議会委員候補者の選出（学部・研究科）について ⑦ 学部長予定者について ⑧ 研究科長予定者について ⑨ 図書館長予定者について ⑩ 地域連携センター長予定者について



## 2 経営学科

選 抜 区 分	試 験 日	募 集 人 員	志 願 者 数	受 験 者 数	合 格 者 数	入 学 者 数	出 身 地 等 内 訳	備 考	
学 校 推 薦 型 選 抜	学校推薦型選抜(県内)	45 名	31 名 ( 17 )	31 名 ( 17 )	31 名 ( 17 )	31 名 ( 17 )	東青: 16 県内: 15 県外: 0		
	学校推薦型選抜(県外)	6 名	7 名 ( 6 )	7 名 ( 6 )	7 名 ( 6 )	7 名 ( 6 )	東青: 0 県内: 0 県外: 7		
小 計		51 名	38 名 ( 23 )	38 名 ( 23 )	38 名 ( 23 )	38 名 ( 23 )	東青: 16 県内: 15 県外: 7		
総 合 型 選 抜	I 期	9 名	31 名 ( 15 )	31 名 ( 15 )	11 名 ( 6 )	11 名 ( 6 )	東青: 4 県内: 4 県外: 3		
	II 期	海外帰国子女	若干名	0 名 ( 0 ) [ 0 ]	0 名 ( 0 ) [ 0 ]	0 名 ( 0 ) [ 0 ]	0 名 ( 0 ) [ 0 ]		
		社会人	若干名	0 名 ( 0 ) [ 0 ]	0 名 ( 0 ) [ 0 ]	0 名 ( 0 ) [ 0 ]	0 名 ( 0 ) [ 0 ]		
		外国人留学生	若干名	1 名 ( 0 ) [ 1 ]	1 名 ( 0 ) [ 1 ]	0 名 ( 0 ) [ 0 ]	0 名 ( 0 ) [ 0 ]		
	小 計	9+若干名	32 名 ( 15 ) [ 1 ]	32 名 ( 15 ) [ 1 ]	11 名 ( 6 ) [ 0 ]	11 名 ( 6 ) [ 0 ]	東青: 4 県内: 4 県外: 3		
一 般 選 抜	前期日程	60 名	230 名 ( 62 ) [ 21 ]	209 名 ( 55 ) [ 20 ]	126 名 ( 40 ) [ 11 ]	79 名 ( 21 ) [ 8 ]	東青: 10 県内: 17 県外: 52		
	後期日程	5 名	59 名 ( 18 ) [ 4 ]	59 名 ( 18 ) [ 4 ]	5 名 ( 2 ) [ 0 ]	2 名 ( 0 ) [ 0 ]	東青: 0 県内: 0 県外: 2		
	小 計	65 名	289 名 ( 80 ) [ 25 ]	268 名 ( 73 ) [ 24 ]	131 名 ( 42 ) [ 11 ]	81 名 ( 21 ) [ 8 ]	東青: 10 県内: 17 県外: 54		
総 計		125 名	359 名 ( 118 ) [ 26 ]	338 名 ( 111 ) [ 25 ]	180 名 ( 71 ) [ 11 ]	130 名 ( 50 ) [ 8 ]	東青: 30 ( 23.1 % ) 県内: 36 ( 27.7 % ) 県外: 64 ( 49.2 % )		

(注) 1 ( )は女の人数、[ ]は卒業生(高校卒業程度認定試験合格者を含む)の内数を表す。

### 3 経済学科

選 抜 区 分	試 験 日	募 集 人 員	志 願 者 数	受 験 者 数	合 格 者 数	入 学 者 数	出 身 地 等 内 訳	備 考	
学 校 推 薦 型 選 抜	学校推薦型選抜(県内)	50 名	36 名 ( 10 )	36 名 ( 10 )	35 名 ( 10 )	35 名 ( 10 )	東青: 17 県内: 18 県外: 0		
	学校推薦型選抜(県外)	6 名	7 名 ( 2 )	7 名 ( 2 )	7 名 ( 2 )	7 名 ( 2 )	東青: 0 県内: 0 県外: 7		
小 計		56 名	43 名 ( 12 )	43 名 ( 12 )	42 名 ( 12 )	42 名 ( 12 )	東青: 17 県内: 18 県外: 7		
総 合 型 選 抜	I 期	9 名	16 名 ( 4 )	16 名 ( 4 )	9 名 ( 3 )	9 名 ( 3 )	東青: 2 県内: 3 県外: 4		
	II 期	海外帰国子女	若干名	0 名 ( 0 )	0 名 ( 0 )	0 名 ( 0 )	0 名 ( 0 )		
		社会人	若干名	1 名 ( 0 )	1 名 ( 0 )	0 名 ( 0 )	0 名 ( 0 )		
		外国人留学生	若干名	0 名 ( 0 )	0 名 ( 0 )	0 名 ( 0 )	0 名 ( 0 )		
小 計		9+若干名	17 名 ( 4 )	17 名 ( 4 )	9 名 ( 3 )	9 名 ( 3 )	東青: 2 県内: 3 県外: 4		
一 般 選 抜	前期日程	60 名	313 名 ( 81 )	276 名 ( 73 )	122 名 ( 33 )	88 名 ( 22 )	東青: 6 県内: 23 県外: 59		
	後期日程	5 名	102 名 ( 28 )	102 名 ( 28 )	6 名 ( 4 )	1 名 ( 1 )	東青: 0 県内: 0 県外: 1		
小 計		65 名	415 名 ( 109 )	378 名 ( 101 )	128 名 ( 37 )	89 名 ( 23 )	東青: 6 県内: 23 県外: 60		
総 計		130 名	475 名 ( 125 )	438 名 ( 117 )	179 名 ( 52 )	140 名 ( 38 )	東青: 25 県内: 44 県外: 71	( 17.9 % ) ( 31.4 % ) ( 50.7 % )	

(注) 1 ( )は女の人数、[ ]は卒業生(高校卒業程度認定試験合格者を含む)の内数を表す。

# 4 地域みらい学科

選抜区分	試験日	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	出身地等内訳	備考	
学校推薦型選抜	学校推薦型選抜(県内)	20名	11名 (6)	11名 (6)	11名 (6)	11名 (6)	東青: 3 県内: 8 県外: 0		
	学校推薦型選抜(県外)	3名	8名 (3)	8名 (3)	8名 (3)	8名 (3)	東青: 0 県内: 0 県外: 8		
小計		23名	19名 (9)	19名 (9)	19名 (9)	19名 (9)	東青: 3 県内: 8 県外: 8		
総合型選抜	I期	12名	22名 (11)	22名 (11)	13名 (9)	13名 (9)	東青: 6 県内: 5 県外: 2		
	II期	海外帰国子女	若干名	0名 (0)	0名 (0)	0名 (0)	0名 (0)		
		社会人	若干名	0名 (0)	0名 (0)	0名 (0)	0名 (0)		
		外国人留学生	若干名	0名 (0)	0名 (0)	0名 (0)	0名 (0)		
小計	12+若干名	22名 (11)	22名 (11)	13名 (9)	13名 (9)	東青: 6 県内: 5 県外: 2			
一般選抜	前期日程	10名	50名 (14)	38名 (12)	26名 (10)	20名 (7)	東青: 4 県内: 3 県外: 13		
	後期日程	-名	-名 (-)	-名 (-)	-名 (-)	-名 (-)			
小計		10名	50名 (14)	38名 (12)	26名 (10)	20名 (7)	東青: 4 県内: 3 県外: 13		
総計		45名	91名 (34)	79名 (32)	58名 (28)	52名 (25)	東青: 13 県内: 16 県外: 23	(%) 25.0 (%) 30.8 (%) 44.2	

(注) 1 ( )は女の人数、[ ]は卒業生(高校卒業程度認定試験合格者を含む)の内数を表す。

# 5 大学院

選 拔 区 分	試 験 日	募 集 人 員	志 願 者 数	受 験 者 数	合 格 者 数	入 学 者 数	出 身 地 等 内 訳	備 考
前期課程(修士課程)	学内推薦選抜 第Ⅰ期募集 (10/22) 第Ⅱ期募集 (2/11)	4名	1名 (0)	0名 (0)	0名 (0)	0名 (0)	東青: 0 県内: 0 県外: 0	
			3名 (1)	3名 (1)	3名 (1)	3名 (1)	東青: 2 県内: 1 県外: 0	
			0名 (0)	0名 (0)	0名 (0)	0名 (0)	東青: 0 県内: 0 県外: 0	
小計		4名	4名 (1)	3名 (1)	3名 (1)	3名 (1)	東青: 2 県内: 1 県外: 0	
後期課程(博士課程)	社会人特別選抜 第Ⅰ期募集 (10/22) 第Ⅱ期募集 (2/11)	2名	1名 (0)	1名 (0)	0名 (0)	0名 (0)	東青: 0 県内: 0 県外: 0	
			0名 (0)	0名 (0)	0名 (0)	0名 (0)	東青: 0 県内: 0 県外: 0	
			1名 (0)	1名 (0)	0名 (0)	0名 (0)	東青: 0 県内: 0 県外: 0	
小計		2名	1名 (0)	0名 (0)	0名 (0)	0名 (0)	東青: 0 県内: 0 県外: 0	
合計		6名	5名 (1)	4名 (1)	3名 (1)	3名 (1)	東青: 2 県内: 1 県外: 0	(66.7%) (33.3%) (0.0%)
				昨 年 度				
								(60.0%) (20.0%) (20.0%)

(注) ( )は女子内数を表す。

# 第7 2022年度(令和4年度)青森公立大学卒業・修了者就職状況

## 1 学部

4年次在籍者 326人

卒業者 309人

(16年度生 女1人：17年度生 男2人：18年度生 男3人、女1人：19年度生 男163人、女139人)

2023年5月1日確定

就職希望者 291人

就職以外 18人

進学希望者 4人(大学院進学希望者 2人：専門学校等 2人)

その他 14人(留学 1人：公務員試験再挑戦 3人：起業など 2人：一時的・臨時 2人：資格取得 1人：就職の意思なし 4人：その他 1人)

### (1) 就職状況(昨年同時期との比較)

区分	就職希望者(人)				うち就職決定者(人)				就職率(%)			
	2022年度 (A)	2021年度 (B)	A-B	2022年度 (C)	2021年度 (D)	C-D	2022年度 (E)=(C/A)	2021年度 (F)=(D/B)	E-F			
男	経営	61	55	6	60	54	6	98.4	98.2	0.2		
	経済	79	82	△3	75	79	△4	94.9	96.3	△1.4		
	地域みらい	14	12	2	12	12	0	85.7	100.0	△14.3		
計	154	149	5	147	145	2	95.5	97.3	△1.8			
女	経営	64	64	0	63	64	△1	98.4	100.0	△1.6		
	経済	44	41	3	44	41	3	100.0	100.0	0.0		
	地域みらい	29	28	1	29	25	4	100.0	89.3	10.7		
計	137	133	4	136	130	6	99.3	97.7	1.6			
合計	291	282	9	283	275	8	97.3	97.5	△0.2			

### (2) 学科別就職状況

区分	就職希望者(人)	就職決定者(人)	就職率(%)
経営	125	123	98.4
経済	123	119	96.7
地域みらい	43	41	95.3
計	291	283	97.3

### (3) 就職決定者の本社所在地

区分	青森県		北海道		東北(青森県以外)		首都圏		その他	
	管内(人)	管内(%)	管内以外(人)	管内以外(%)	管内(人)	管内(%)	管内(人)	管内(%)	管内(人)	管内(%)
就職決定者	24	16.3	26	17.7	50	34.0	47	32.0	7	4.8
男	22	16.2	28	20.6	50	36.8	4	2.9	28	27.9
女	2	1.5	0	0.0	0	0.0	43	41.2	16	15.1
計	46	16.3	54	19.1	100	35.4	8	2.8	75	26.5

※管内：青森市、平内町、外ヶ浜町、今別町、通什村

### (4) 学科別業種別内訳(就職決定者)

区分	卸売・小売業	製造業	公務	建設業	電気・ガス	運輸業	情報通信業	不動産業	医療・福祉	農林水産	計
経営	26	32	16	7	11	8	0	0	0	0	123
経済	28	17	21	6	26	5	0	0	2	1	119
地域みらい	12	1	7	4	8	0	0	2	1	3	41
就職決定者(人)	66	50	44	17	45	13	0	6	2	7	283
構成比(%)	23.3	17.7	15.5	6.0	15.9	4.6	0.0	2.1	0.7	2.5	100.0

2 大 学 院

( 前期：男 2人 女 2人 後期：男 0人 女 0人 )

修了者	4人
就職希望者	2人
進学希望者	0人
復職希望者	2人

(1) 就職状況 (昨年同時期との比較)

区分	就職希望者 (人)			うち就職決定者 (人)			就職率 (%)			
	2022年度 (A)	2021年度 (B)	A - B (C)	2022年度 (D)	2021年度 (E)	C - D (F)	2022年度 (E)=(C/A) (F)=(D/B)	2021年度 (F)=(D/B)	E - F	
男	前期	0	1	△1	0	1	△1	0.0	100.0	△100.0
	後期	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	計	0	1	△1	0	1	△1	0.0	100.0	△100.0
女	前期	2	0	2	2	0	2	100.0	0.0	100.0
	後期	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	計	2	0	2	2	0	2	100.0	0.0	100.0
合計	2	1	1	2	1	1	100.0	100.0	0.0	0.0

(2) 就職決定者の本社所在地

区分	青森県										北海道		東北 (青森県以外)		首都圏		その他	
	管内 (人)	管内 (%)	管内以外 (人)	管内以外 (%)	管内計 (人)	管内割合 (%)	就職者 (人)	割合 (%)	就職者 (人)	割合 (%)	就職者 (人)	割合 (%)	就職者 (人)	割合 (%)	就職者 (人)	割合 (%)	就職者 (人)	割合 (%)
男	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
女	2	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	50.0	1	50.0	1	50.0
計	2	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	50.0	1	50.0	1	50.0

※管内：青森市、平内町、外ヶ浜町、今別町、瀧田村

(3) 業種別内訳 (就職決定者)

区分	卸売・小売業	製造業	公務	建設業	電気・ガス	運輸業	情報通信業	不動産業	飲食店・宿泊業	教育・学習支援業	医療・福祉	農林水産	計
就職決定者 (人)	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
構成比 (%)	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0





## 第9 公立大学法人青森公立大学 役員・部局長・審議会名簿

### 1 法人役員

令和5年3月31日現在

職名	氏名	任期	備考
理事長	石川 浩明	R3. 4. 1～R7. 3. 31	
副理事長	香取 薫	R4. 4. 1～R8. 3. 31	学長
理事（非常勤）	今 喜 典	R3. 4. 1～R7. 3. 31	公益財団法人21あおもり産業総合支援センター理事長
理事（非常勤）	佐藤 敬	R3. 4. 1～R7. 3. 31	青森中央学院大学学長
理事（非常勤）	小山内 豊彦	R3. 4. 1～R7. 3. 31	青森県立保健大学特任教授
理事（非常勤）	小野 大介	R3. 4. 1～R7. 3. 31	青森トヨタ自動車(株)代表取締役社長
監事（非常勤）	石田 恒久	H31. 4. 1～R4年度に係る 財務諸表承認日	石田法律事務所代表
監事（非常勤）	米田 孝嗣	H31. 4. 1～R4年度に係る 財務諸表承認日	米田孝嗣税理士事務所代表

### 2 学長・部局長

職名	氏名	任期	備考
学長	香取 薫	R4. 4. 1～R8. 3. 31	
学部長	神山 博	R3. 4. 1～R5. 3. 31	
研究科長	藤井 一弘	R3. 4. 1～R5. 3. 31	
図書館長	香取 真理	R3. 4. 1～R5. 3. 31	
地域連携センター長	香取 薫	R3. 4. 1～R5. 3. 31	
事務局長	伊藤 善行	(事務局長の職にある期間)	

### 3 経営審議会

職名	氏名	任期	備考
議長	石川 浩明	R3. 4. 1～R7. 3. 31	理事長
職務代理者	香取 薫	R4. 4. 1～R8. 3. 31	副理事長
委員	今 喜典	R3. 4. 1～R7. 3. 31	理事
委員	佐藤 敬	R3. 4. 1～R7. 3. 31	理事
委員	小山内 豊彦	R3. 4. 1～R7. 3. 31	理事
委員	小野 大介	R3. 4. 1～R7. 3. 31	理事
委員	神山 博	R3. 4. 1～R5. 3. 31	理事長が指名する職員 (学部長)
委員	伊藤 善行	R3. 4. 1～R5. 3. 31	理事長が指名する職員 (事務局長)
委員	織田 知裕	R3. 5. 26～R5. 5. 25	法人役職員以外の有識者
委員	長内 修吾	R3. 5. 26～R5. 5. 25	法人役職員以外の有識者

### 4 教育研究審議会

職名	氏名	任期	備考
議長	香取 薫	R4. 4. 1～R8. 3. 31	学長
職務代理者	神山 博	R3. 4. 1～R5. 3. 31	学部長
委員	佐藤 敬	R3. 4. 1～R7. 3. 31	学長が指名する理事
委員	藤井 一弘	R3. 4. 1～R5. 3. 31	学長が定める重要な組織の長 (研究科長)
委員	香取 真理	R3. 4. 1～R5. 3. 31	学長が定める重要な組織の長 (図書館長)
委員	香取 薫	R3. 4. 1～R5. 3. 31	学長が定める重要な組織の長 (地域連携センター長)
委員	伊藤 善行	(事務局長の職にある期間)	学長が定める重要な組織の長 (事務局長)
委員	丹藤 永也	R3. 4. 1～R5. 3. 31	学長が指名する職員 (学部教授会選出委員)
委員	樺 克裕	R3. 4. 1～R5. 3. 31	学長が指名する職員 (学部教授会選出委員)
委員	藤 沼 司	R3. 4. 1～R5. 3. 31	学長が指名する職員 (研究科教授会選出委員)

## ◎業務実績

### 第1 全体評価（全体的実施状況）

令和4年度の年度計画に対する業務実績は、以下に示すとおりであり、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、実施が困難であった業務等はあるものの、教育、研究、地域貢献及びその他の業務のいずれについても、中期計画の進捗は順調であることから、全体としても順調であるものと評価する。

令和4年度計画：136件

【小項目別評価/S評価（はるかに上回る）：0件 A評価（上回る）：2件 B評価（おおむね実施）：134件 C評価（十分には実施していない）：0件 D評価（実施していない）：0件】  
【大項目別評価/5（特筆すべき進捗）：0件 4（順調な進捗）：7件 3（おおむね順調な進捗）：0件 2（進捗がやや遅れている）：0件 1（進捗が著しく遅れており重大な改善事項がある）：0件】

<第2-1教育、第2-2研究、第3地域貢献>

◇教育【年度計画54件【小項目評価/A：2 B：52】 → 大項目評価：4（順調な進捗）】

本学の教育理念等や3つのポリシー（学位授与方針・実施方針・実施工程）の編成方針・実施方針、入学者受入方針に基づき、コロナ禍においても対面授業を基本としつつ、必要に応じて遠隔授業等も実施する適切な授業運営や学生から教員に対する授業評価による教育プログラム等の検証・改善の実施、学生の能動的学修のためのアクティブラーニング室の有効活用、学部及び大学院単位でのFD研修、リモート留学実施のためのPRや体制整備による教育機会や環境の確保、学上課程におけるオープンキャンパスをはじめとした積極的な県内外への高校訪問やオンラインも活用した出張講義等の実施、県内の高校関係者との入学者選抜に関する懇談会と情報提供、データ分析を基にした戦略的なWeb-DM発送などによる志願者の確保、博士課程における学内外での大学院入学選抜説明会の実施や県内企業等へのトップセールスの実施、Webツールも活用した入学相談体制の強化による志願者の確保、授業料減免制度や奨学金の情報提供、学生相談室の継続やオンラインでの相談対応、キャリアアセンダーを軸としたWebツールも積極的に活用した相談・面接練習や企業連携推進員等による求人開拓、県内企業バスツアーや各種ガイダンスの実施などにより全国平均と同水準の就職率を維持するなど、高等教育機関として「教育に責任をもつ」とともに、「経営経済の専門性をもった教養人の育成」に徹底して取り組んだ。

◇研究【年度計画13件【小項目評価/B：13】 → 大項目評価：4（順調な進捗）】

教員等への個人研究費や戦略的研究助成事業による研究費の配分や地域連携センタープロジェクト事業・海外研究者との研究推進、研究成果のホームページ・学術リポジトリ、論纂、公開講座等での積極的な情報発信、研究活動のための交通手段の確保、連携協定団体や企業からの事業及び研究受託、各種産官学金連携への参画を進めるなど、学術研究の観点としての大学として産業経済の発展及び文化の向上に寄与した。

◇地域貢献【年度計画19件【小項目評価/B：19】 → 大項目評価：4（順調な進捗）】

各種地域連携活動として、青森まるっとよいどころ祭りの開催や産官学との連携、教員等の各種行政機関（青森県・青森市・県内自治体等）の審議会委員等への就任、ホームページや公開講座、まちなかラボでの研究成果等の情報発信、21あおももり産業総合支援センターと連携した「創業・起業セミナー」の開催、青森市ビジネスアイデアコンテスト（第2位及びアイデアエイジェンズ受賞）や「青森リモートワーク人材誘致研究会」へ積極的に参画するなど、教育研究成果の還元による地域貢献活動を一層推進し、地域人材の育成や産業経済の発展に寄与した。

<上記以外/第4業務運営の改善及び効率化 第5経営・財務内容の改善 第6自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供 第7その他業務運営>

◇業務運営の改善及び効率化【年度計画12件【小項目評価/B：12】 → 大項目評価：4（順調な進捗）】

法人経営と教学全般を包括する戦略会議の定期的な開催や審議会等の委員等からの意見聴取・意見交換会の実施、大学設置基準に定められた教員職員数を確保するため積極的な採用活動、事務職員の人事評価の継続実施による給与・昇任等への反映、教員職員の人事評価の実施、事務等の効率化・合理化の検証・見直しの実施、各種広報媒体を活用した大学イメージ動画等の各種動画の配信、各種大学イベント・地域貢献・教育研究活動等の積極的な情報発信を行うなど、業務運営の改善及び効率化に的確に取り組んだ。

◇経営・財務内容の改善【年度計画14件【小項目評価/B：14】 → 大項目評価：4（順調な進捗）】

検定料収入や研究関連収入・その他の外部資金の積極的な獲得を図るとともに、事業の見直し等によるスクラップアンドビルドによる経費の抑制や適切な資産運用、内部統制規程に基づき、各種監査の実施、教職員の法令遵守に対する意識向上に努めるなど、経営・財務内容の改善に積極的に取り組んだ。

◇自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供【年度計画8件【小項目評価/B：8】 → 大項目評価：4（順調な進捗）】

中期計画や年度計画の定期的な進捗管理や業務実績等に係る第三者機関による外部評価の実施、当該評価結果の大学運営への改善事項等の反映及びPDCAサイクルによる継続的な改善、個人情報保護の保護に留意した法人情報等のホームページでの公表をすなど、自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に着手に取り組んだ。

◇その他業務運営【年度計画16件【小項目評価/B：16】 → 大項目評価：4（順調な進捗）】

インフラ長寿命化計画に基づき、各種施設・設備の効果的な整備や図書館自習室Bの改装等の良好な学修環境や教育研究活動を確保するための環境整備の実施、消防訓練等による防災・危機管理体制の強化、健康診断やストレスチェックによる健康保持の増進、保有個人情報管理の適正な管理、新型コロナウイルス感染症に係る危機管理対策本部による必要な対策の実施、ハラスメント事案への適切な対応や学生・教職員に対する人権侵害の防止や相談体制の強化を図るなど、その他業務運営に適切に取り組んだ。

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

1 教育に関する目標を達成するための措置

※凡例 年度計画欄の下線：新規・数値目標又は重点的な取組

中期計画		年度計画		業務の実績(計画の進捗状況)	自己評価	自己評価の理由	備考	No.
実施事項及び内容	実施事項及び内容	実施事項及び内容	実施事項及び内容					
<p>1 教育に関する目標を達成するための措置</p> <p>(1) 学生の育成に関する目標を達成するための措置</p> <p>① 学士課程</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人学生に対し本学学部の教育目標・教育方針について周知を徹底する。</li> <li>・シラバス(講義計画・概要)において到達目標を明示してそれに基づく適切な授業運営及びGPAに基づく成績評価を徹底し、成績優秀者の表彰及び成績不振者の個別指導を充実させる。</li> <li>・学生の学習成果を適切に把握し、活用していく。</li> </ul>	<p>実施事項及び内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人学生に本学学部の教育目標・教育方針の周知を徹底する。</li> <li>・シラバス(講義計画・概要)において到達目標を明示し、それに基づく適切な授業運営及びGPAに基づく成績評価を行い、成績優秀者の表彰及び成績不振者の個別指導を実施する。</li> </ul>	<p>実施事項及び内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人学生に本学学部の教育目標・教育方針の周知を徹底する。</li> <li>・シラバス(講義計画・概要)において到達目標を明示し、それに基づく適切な授業運営及びGPAに基づく成績評価を行い、成績優秀者の表彰及び成績不振者の個別指導を実施する。</li> </ul>	<p>実施事項及び内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人学生に本学学部の教育目標・教育方針の周知を徹底する。</li> <li>・シラバス(講義計画・概要)において到達目標を明示し、それに基づく適切な授業運営及びGPAに基づく成績評価を行い、成績優秀者の表彰及び成績不振者の個別指導を実施する。</li> </ul>	<p>業務の実績(計画の進捗状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆新入生オリエンテーション及び大学基礎演習において、教育目標・教育方針の周知を徹底した。</li> <li>◆オリエンテーション 4/1実施</li> <li>◆大学基礎演習(春学期開講全7回)</li> </ul>	B			1
<p>② 博士課程(前期・後期)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人学生に対し本学大学院の教育目標・教育方針について周知を徹底する。</li> <li>・シラバス(講義計画・概要)に基づく適切な授業運営及び成績評価を行う。</li> </ul> <p>(2) 教育内容等に関する目標を達成するための措置</p> <p>① 教育プログラムの検証・再編</p> <p>【学士課程】【博士課程(前期・後期)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生及び大学院生に対する授業評価に関するアンケート等を実施し、その結果に基づき教育改善を推進する。</li> <li>・現行カリキュラムの検証及び必要な改善を図る。</li> </ul> <p>② 教育方法の改善</p> <p>【学士課程】【博士課程(前期・後期)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・FD(教員の教育・研究の質の向上を図るための取組)を通じて、教員間の学生指導に関する情報共有を行い、教育方法や実施体制の改善を行う。</li> <li>・大学での学修の進め方を学ぶための初年次教育を充実させる。</li> <li>・他大学や地域・企業等との連携を図り、単位互換や地元地域等実社会を教育現場とする体験学習などにより学修機会の充実を図る。</li> <li>・アクティブラーニングにより、学生が能動的に学修できる教育方法を推進する。</li> </ul>	<p>実施事項及び内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の学習成果を適切に把握し、その活用方法を検討する。</li> </ul>	<p>実施事項及び内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人学生に対し、本学大学院の教育目標・教育方針の周知を徹底する。</li> </ul>	<p>実施事項及び内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人学生に対し、本学大学院の教育目標・教育方針の周知を徹底する。</li> </ul>	<p>業務の実績(計画の進捗状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆除計の結果、学生の学習成果を可視化した成績チャートを成績通知とともに同封し、学生自身が確認できるようにした。また、活用方法の検討のため、一部の学生面談で当該成績チャートの活用を試行した。</li> </ul>	B		重点	3
<p>② 博士課程(前期・後期)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人学生に対し本学大学院の教育目標・教育方針について周知を徹底する。</li> <li>・シラバス(講義計画・概要)に基づく適切な授業運営及び成績評価を行う。</li> </ul> <p>(2) 教育内容等に関する目標を達成するための措置</p> <p>① 教育プログラムの検証・再編</p> <p>【学士課程】【博士課程(前期・後期)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生及び大学院生に対する授業評価に関するアンケート等を実施し、その結果に基づき教育改善を推進する。</li> <li>・現行カリキュラムの検証及び必要な改善を図る。</li> </ul> <p>② 教育方法の改善</p> <p>【学士課程】【博士課程(前期・後期)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・FD(教員の教育・研究の質の向上を図るための取組)を通じて、教員間の学生指導に関する情報共有を行い、教育方法や実施体制の改善を行う。</li> <li>・大学での学修の進め方を学ぶための初年次教育を充実させる。</li> <li>・他大学や地域・企業等との連携を図り、単位互換や地元地域等実社会を教育現場とする体験学習などにより学修機会の充実を図る。</li> <li>・アクティブラーニングにより、学生が能動的に学修できる教育方法を推進する。</li> </ul>	<p>実施事項及び内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の学習成果を適切に把握し、その活用方法を検討する。</li> </ul>	<p>実施事項及び内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人学生に対し、本学大学院の教育目標・教育方針の周知を徹底する。</li> </ul>	<p>実施事項及び内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人学生に対し、本学大学院の教育目標・教育方針の周知を徹底する。</li> </ul>	<p>業務の実績(計画の進捗状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆大学オリエンテーションにおいて、新入生に対し学生使用の配付及び説明を行い、大学院の教育目標・教育方針の周知を徹底した。</li> <li>◆大学院オリエンテーション(春学期：4/5、秋学期：9/17)</li> <li>◆各授業科目のシラバスに到達目標、評価基準を明示し、それに基づいて授業運営及び成績評価を行った。</li> </ul>	B			4
<p>② 博士課程(前期・後期)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人学生に対し本学大学院の教育目標・教育方針について周知を徹底する。</li> <li>・シラバス(講義計画・概要)に基づく適切な授業運営及び成績評価を行う。</li> </ul> <p>(2) 教育内容等に関する目標を達成するための措置</p> <p>① 教育プログラムの検証・再編</p> <p>【学士課程】【博士課程(前期・後期)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生及び大学院生に対する授業評価に関するアンケート等を実施し、その結果に基づき教育改善を推進する。</li> <li>・現行カリキュラムの検証及び必要な改善を図る。</li> </ul> <p>② 教育方法の改善</p> <p>【学士課程】【博士課程(前期・後期)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・FD(教員の教育・研究の質の向上を図るための取組)を通じて、教員間の学生指導に関する情報共有を行い、教育方法や実施体制の改善を行う。</li> <li>・大学での学修の進め方を学ぶための初年次教育を充実させる。</li> <li>・他大学や地域・企業等との連携を図り、単位互換や地元地域等実社会を教育現場とする体験学習などにより学修機会の充実を図る。</li> <li>・アクティブラーニングにより、学生が能動的に学修できる教育方法を推進する。</li> </ul>	<p>実施事項及び内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の学習成果を適切に把握し、その活用方法を検討する。</li> </ul>	<p>実施事項及び内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人学生に対し、本学大学院の教育目標・教育方針の周知を徹底する。</li> </ul>	<p>実施事項及び内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人学生に対し、本学大学院の教育目標・教育方針の周知を徹底する。</li> </ul>	<p>業務の実績(計画の進捗状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆各授業科目のシラバスに到達目標、評価基準を明示し、それに基づいて授業運営及び成績評価を行った。</li> <li>◆授業評価アンケートを実施し、学生からの意見に対する教員からの回答を取りまとめ、図書館で公開した。また、各授業のアンケート結果をどのように授業へ反映・改善したかを各科目のシラバスに掲載し、教育改善を推進するとともに、現行カリキュラムの検証を行った。</li> <li>◆授業評価アンケート(春学期：5/23～8/8、秋学期：11/11～1/27)</li> </ul>	B			5
<p>② 博士課程(前期・後期)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人学生に対し本学大学院の教育目標・教育方針について周知を徹底する。</li> <li>・シラバス(講義計画・概要)に基づく適切な授業運営及び成績評価を行う。</li> </ul> <p>(2) 教育内容等に関する目標を達成するための措置</p> <p>① 教育プログラムの検証・再編</p> <p>【学士課程】【博士課程(前期・後期)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生及び大学院生に対する授業評価に関するアンケート等を実施し、その結果に基づき教育改善を推進する。</li> <li>・現行カリキュラムの検証及び必要な改善を図る。</li> </ul> <p>② 教育方法の改善</p> <p>【学士課程】【博士課程(前期・後期)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・FD(教員の教育・研究の質の向上を図るための取組)を通じて、教員間の学生指導に関する情報共有を行い、教育方法や実施体制の改善を行う。</li> <li>・大学での学修の進め方を学ぶための初年次教育を充実させる。</li> <li>・他大学や地域・企業等との連携を図り、単位互換や地元地域等実社会を教育現場とする体験学習などにより学修機会の充実を図る。</li> <li>・アクティブラーニングにより、学生が能動的に学修できる教育方法を推進する。</li> </ul>	<p>実施事項及び内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の学習成果を適切に把握し、その活用方法を検討する。</li> </ul>	<p>実施事項及び内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人学生に対し、本学大学院の教育目標・教育方針の周知を徹底する。</li> </ul>	<p>実施事項及び内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人学生に対し、本学大学院の教育目標・教育方針の周知を徹底する。</li> </ul>	<p>業務の実績(計画の進捗状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆教員の教育方法や実施体制の改善のため、学部及び大学院単位でFD研修を実施した。</li> <li>◆8/24FD研修会(学部)を実施(発達障害を持つ学生の特性と対応、公的研修費の不正使用の防止等)</li> <li>◆3/22FD研修会(大学院)を実施(研究指導計画)</li> </ul>	B			7
<p>② 博士課程(前期・後期)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人学生に対し本学大学院の教育目標・教育方針について周知を徹底する。</li> <li>・シラバス(講義計画・概要)に基づく適切な授業運営及び成績評価を行う。</li> </ul> <p>(2) 教育内容等に関する目標を達成するための措置</p> <p>① 教育プログラムの検証・再編</p> <p>【学士課程】【博士課程(前期・後期)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生及び大学院生に対する授業評価に関するアンケート等を実施し、その結果に基づき教育改善を推進する。</li> <li>・現行カリキュラムの検証及び必要な改善を図る。</li> </ul> <p>② 教育方法の改善</p> <p>【学士課程】【博士課程(前期・後期)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・FD(教員の教育・研究の質の向上を図るための取組)を通じて、教員間の学生指導に関する情報共有を行い、教育方法や実施体制の改善を行う。</li> <li>・大学での学修の進め方を学ぶための初年次教育を充実させる。</li> <li>・他大学や地域・企業等との連携を図り、単位互換や地元地域等実社会を教育現場とする体験学習などにより学修機会の充実を図る。</li> <li>・アクティブラーニングにより、学生が能動的に学修できる教育方法を推進する。</li> </ul>	<p>実施事項及び内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の学習成果を適切に把握し、その活用方法を検討する。</li> </ul>	<p>実施事項及び内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人学生に対し、本学大学院の教育目標・教育方針の周知を徹底する。</li> </ul>	<p>実施事項及び内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人学生に対し、本学大学院の教育目標・教育方針の周知を徹底する。</li> </ul>	<p>業務の実績(計画の進捗状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆「大学基礎演習」及び「学習導入演習」の授業評価アンケートを実施し、その結果を踏まえ、授業内容を精査し、令和5年度のシラバスに反映させた。</li> <li>◆授業評価アンケート(大学基礎演習(6/6～6/10)、学習導入演習(7/19～7/22))</li> </ul>	B			8

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

1 教育に関する目標を達成するための措置

※凡例 年度計画欄の下線：新規・数値目標又は重点的な取組

中期計画 実施事項及び内容		年度計画 実施事項及び内容		業務の実績(計画の進捗状況)	自己評価	自己評価の理由	備考	No.
③グローバル化への対応 【学上課程】 ・語学研修や留学制度等、海外における教育機会の充実に努める。 ・海外の教育機関や研究者等との交流や共同研究等を推進する。	・単位互換協定を締結する大学と連携し、科目の調整を行うなど、単位互換制度を実施する。	・地元地域等実社会を教育現場とする学修機会の充実を図る。	・単位互換協定を締結している各大学と調整した結果、令和4年度の単位互換は中止となった。 ◇単位互換協定大学(2大学) 青森県立保健大学、青森中央学院大学	単位互換協定を締結している各大学と調整した結果、令和4年度の単位互換は中止となった。 ◇単位互換協定大学(2大学) 青森県立保健大学、青森中央学院大学	B	各大学とも他大学の学生を受け入れることによる新型コロナウイルス感染症拡大の授業運営等へのリスクを考慮し実施しなかったことから、B評価とした。		9
	・授業やゼミ活動等において、アクティブラーニング室の有効活用を図る。	・地元地域等実社会を教育現場とする学修機会の充実を図る。	・自己の探求、知の挑戦等(地域みらい学科) 61件	経済学科と地域みらい学科の授業において、地域・企業を教育現場とする学修機会の充実を図った。 ・フィールドスタディ(経済学科) 6件 ・自己の探求、知の挑戦等(地域みらい学科) 61件	B			10
	・スターリング大学、ワイカト大学との留学・語学研修事業について、授業を活用した留学事業のPR、留学を検討する学生が留学経験者と直接意見交換ができる相談会の開催等、留学参加意識の醸成を図りながら実施する。	・授業やゼミ活動等において、アクティブラーニング室の有効活用を図る。	・自己の探求、知の挑戦等(地域みらい学科) 61件	アクティブラーニング室の設備等の情報を記載したチラシを教員・事務職員に配付するなど、有効活用を促進するPRを行った。また、授業やゼミ活動等での利用を検討していた教員に対して、個別対応で利用方法の説明を行った結果、有効活用が図られた。 ◇R2年度 379コマ(対前年度+49) ◇R3年度 436コマ(対前年度+57) ◇R4年度 555コマ(対前年度+119)	A	年度計画のとおり、アクティブラーニング室の有効活用を図るとともに、昨年度の利用実績の増加数を上回ったことから、A評価とした。	重点	11
	・ICTを活用したリモート留学として、NZワイカト大学に加え、英国スターリング大学を実施し、米国のポスドク大学を検討する。	・授業やゼミ活動等において、アクティブラーニング室の有効活用を図る。	・自己の探求、知の挑戦等(地域みらい学科) 61件	新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、令和4年度の全ての派遣留学事業は中止したが、ワイカト大学にリモート留学を置き環境を整えた。 リモート留学説明会(4/26)において、リモート留学経験者と意見交換を行い、さらに授業を活用してリモート留学のPRを実施した。 なお、第73回日米学生会議の青森開催時には、本学の学生(2名)もスピーチ及び通訳で参加し、会議の運営に貢献した。	B	派遣留学事業は、全ての渡航先で、外務省からの感染症危険レベル2(不要不急の渡航はやめてください)以上の発出等があり、実施に至らなかったが、留学事業のPR等は行っていることから、B評価とした。		12
・学会やワークショップ、研究会等への参加、招聘又はオンラインにより、海外の研究者との共同研究及び交流を推進する。	・ICTを活用したリモート留学として、NZワイカト大学に加え、英国スターリング大学を実施し、米国のポスドク大学を検討する。	・自己の探求、知の挑戦等(地域みらい学科) 61件	ICTを活用したリモート留学の実施について、英国スターリング大学や米国のポスドク大学を含めて検討・調整を行った結果、NZワイカト大学のみの実施可能となり、リモート留学を実施できる環境を整え、募集を行ったが参加希望者がいなかった。 また、留学ではないが、1~4年次の英語科目で、eラーニング(リアリーイングリング)を活用した。	B	リモート留学事業のPR等を行い、リモート留学の環境を整えたが、実施には至らなかった。評価に当たっては、リモート留学を実施できる環境を整えたことから、B評価とした。	拡充 ・重点	13	
	・学会やワークショップ、研究会等への参加、招聘又はオンラインにより、海外の研究者との共同研究及び交流を推進する。	・自己の探求、知の挑戦等(地域みらい学科) 61件	インタナーネットを活用し、Zoom等で海外の研究者との研究事業を行った。 ・ACTA International Conference(オーストラリア/ブリスベン)での研究発表(香取(史)教授、ほこだて未来大学及び海外(ニューージーランド)の研究者) ・バーチャル・コミュニティWICETのプロモーション研究事業 [地域連携センタープロジェクト事業:遠藤教授、Dakota Prairie Public School (米国)及びピブノーマル大学(フィリピン)の研究者]	B				14

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

1 教育に関する目標を達成するための措置

※凡例 年度計画欄の下線：新規・数値目標又は重点的な取組

中期計画 実施事項及び内容		年度計画 実施事項及び内容		業務の実績(計画の進捗状況)	自己評価	自己評価の理由	備考	No.
④人間としての魅力を高めるための教育 【学士課程】 ・経営経済の専門分野の修得に加え、芸術・文化を理解し、社会的倫理観を身に付けた人材を育成するた め、教育科目の充実を図る。	・現行カリキュラムの芸術・文化を理解し、社会的倫理観を身に付ける教育科目を継続しながら、授業評価に関するアンケート等により検証し、必要に応じて改善する。	・教員の指導能力の向上のため、FD活動等を充実させるとともに、授業評価に関するアンケート等の結果を踏まえ検証し、必要に応じて改善する。	・教員の指導能力の向上のため、FD活動等を充実させるとともに、授業評価に関するアンケート等の結果を踏まえ検証し、必要に応じて改善する。	<p>業務の実績(計画の進捗状況)</p> <p>教養科目の授業評価アンケートを実施し、学生からの意見に対する教員からの回答を取りまとめ、図書館で公開した。また、各授業のアンケート結果を検証し、どのように授業へ反映・改善したかを各科目のシラバスに掲載した。</p> <p>◇授業評価アンケート 春学期：5/23～8/8 秋学期：11/11～1/27</p>	B			15
(3) 教育の実施体制に関する目標を達成するための措置 ①教員の教育指導能力の向上 【学士課程】【博士課程(前期・後期)】 ・教員の指導能力の向上のため、FD活動等を充実させるとともに、授業評価に関するアンケート等の結果を踏まえ検証し、改善する。	②教育環境の整備 【学士課程】 ・教室内の設備の充実やTA(学生)による授業補助者制度の活用により、授業の環境を整える。 ・教育課程の中で国際芸術センター青森、国際交流ハウス等の交流施設及び設備の活用を推進する。 ・学部教育、地域及び海外との教育機会の充実を図るため、ICT(情報通信技術)の活用を促進する。	・良好な学修環境や教育研究環境を確保するため、講義室や図書情報機器や映像・音響機器の更新及び図書館の環境整備を行う。 ・TA(学生)による授業補助者)制度を実施し、授業環境の維持向上を図る。 ・美術科目(教養科目)において、国際芸術センター青森の施設・設備を活用する。 ・授業において、国際交流ハウス等の交流施設の施設・設備を活用する。	<p>業務の実績(計画の進捗状況)</p> <p>良好な学修環境や教育研究環境を確保するため、講義室や図書情報機器や映像・音響機器の更新及び図書館の環境整備を行う。</p> <p>◇R4年度実績 ＜202・204・422・423講義室のプロジェクト、ディスプレイスクリーン、音響等の設備更新 ◇図書館 ・「学習導入演習」内で新入生向けガイダンスを実施(9コマ担当) ・IF学習室Bの改装(10月) ・図書貸出専用パスの運用開始(12月) ・月毎にテーマを決めた図書館展示等の実施(通年)</p> <p>TA制度を実施し、授業環境の維持向上を図った。</p> <p>◇春学期：36名、秋学期：26名 美術科目(教養科目)において、国際芸術センター青森の施設・設備を活用し、授業を実施した。</p> <p>◇「芸術の創造」 ◇「美と価値」</p> <p>受講生の多い科目について、交流施設の施設・設備を活用し、授業を行った。</p> <p>◇講堂(交流施設) 春学期 14科目 秋学期 7科目</p> <p>「学内LIVE中継システム」で整備した機器を活用し、コロナ禍で来学できない教員の講義をオンラインで行った。 ◇教員利用者(春学期4名、秋学期0名)</p> <p>ICTを活用して地域の企業・団体と連携した授業を行った。</p> <p>◇海外の大学(遠藤ゼミ) ◇国内の大学(藤沼ゼミ)</p>	B		重点	16	
					B			17
					B			18
					B			19
					B			20
					B		重点	21
					B		重点	22

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

1 教育に関する目標を達成するための措置

※凡例 年度計画欄の下線：新規・数値目標又は重点的な取組

中期計画 実施事項及び内容		年度計画 実施事項及び内容		業務の実績(計画の進捗状況)	自己評価	自己評価の理由	備考	No.
		<ul style="list-style-type: none"> <li>ICTを活用したリモート留学として、N/Wライカト大学に加え、英国スタンディング大学を実施し、米国ボストン大学を検討する。(再掲)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICTを活用したリモート留学の実施について、英国スタンディング大学や米国ボストン大学を含めて検討・調整を行った結果、N/Wライカト大学のみが実施可能となり、リモート留学を実施できる環境を整え、募集を行ったが参加希望者がいなかった。</li> <li>また、留学ではないが、1~4年次の英語科目で、eラーニング(リアリーイングリッヂ)を活用した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICTを活用したリモート留学の実施について、英国スタンディング大学や米国ボストン大学を含めて検討・調整を行った結果、N/Wライカト大学のみが実施可能となり、リモート留学を実施できる環境を整え、募集を行ったが参加希望者がいなかった。</li> <li>また、留学ではないが、1~4年次の英語科目で、eラーニング(リアリーイングリッヂ)を活用した。</li> </ul>	B	リモート留学事業のPR等を行い、リモート留学の環境を整えたが、実施には至らなかった。評価に当たっては、リモート留学を実施できている環境は整えたことから、B評価とした。	再掲 No. 13	23
<ul style="list-style-type: none"> <li>【博士課程(前期・後期)】</li> <li>サテライトの有効活用を図るとともに、遠隔授業の利用促進を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>サテライトでの授業及び遠隔授業システムの利用についてオリエンテーション等を通して周知を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>サテライトでの授業及び遠隔授業システムの利用についてオリエンテーション等を通して周知を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学院のオリエンテーションでサテライトの授業及び遠隔授業システムの利用について周知を行った。</li> <li>◇大学院オリエンテーション 春学期4/5、秋学期9/17</li> </ul>	B				24
<ul style="list-style-type: none"> <li>③学修環境の整備</li> <li>【学士課程】【博士課程(前期・後期)】</li> <li>・学部生及び大学院生のニーズを把握し、学修環境の利便性を向上させる。</li> <li>・大学院生へPCの貸与を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業評価に因するアンケート等の結果から学修環境に関する学生のニーズを把握し、必要な改善を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>良好な学修環境や教育研究環境を確保するため、講義室や図書室の情報機器や映像・音響機器の更新及び図書館の環境整備を行う。(再掲)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学生に対する授業アンケートや卒業アンケートの結果を踏まえ、学修環境に関するニーズを把握し、教室のプロジェクトター・ディスプレイの更新を行った。</li> <li>◇授業評価アンケート 春学期：5/23~8/8 秋学期：11/11~1/27</li> <li>◇卒業アンケート：2/28~3/31</li> </ul>	B				25
		<ul style="list-style-type: none"> <li>良好な学修環境や教育研究環境を確保するため、講義室の情報機器や映像・音響機器の更新及び図書館の環境整備を行う。(再掲)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>良好な学修環境や教育研究環境を確保するため、講義室や図書室の情報機器や映像・音響機器の更新及び図書館の環境整備を行う。</li> <li>&lt;R4年度実績&gt;</li> <li>◇202・204・422・423講義室のプロジェクトター、ディスプレイ、スクリーン、音響等の設備更新</li> <li>◇図書館</li> <li>・「学習導入演習」内で新入生向けガイダンスを実施(9コマ担当)</li> <li>・IF自習室Bの改装(10月)</li> <li>・図書貸出専用バッグの運用開始(12月)</li> <li>・月毎にテーマを決めた図書展示等の実施(通年)</li> </ul>	B			再掲 No. 17	26
		<ul style="list-style-type: none"> <li>研究でPCが必要な大学院生にPCを貸与する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全ての大学院生にPCを貸与した。また、処理の遅いPCについては、メンテナンスを実施した。</li> <li>&lt;PC貸与実績&gt;</li> <li>◇R2年度 12名</li> <li>◇R3年度 13名</li> <li>◇R4年度 13名</li> </ul>	B				27



第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

1 教育に関する目標を達成するための措置

※凡例 年度計画欄の下線：新規・数値目標又は重点的な取組

中期計画 実施事項及び内容		年度計画 実施事項及び内容		業務の実績(計画の進捗状況)	自己評価	自己評価の理由	備考	No.
<p>(4) 学生への受入に関する目標を達成するための措置 ① 学上課程の学生確保 ・一般選抜において、定員の3倍程度の志願者を確保する。</p> <p>・効果的に学生募集活動を実施するために、県内外の高校訪問、出張講義・大学見学を実施する。さらに県内においては、県内高校との懇談会や高大連携事業等を実施することで、高等学校との連携を図り、県内からの志願者の増加に繋げる。</p> <p>・入試関連を中心としたデータを分析し、Web活用も含めた効果的な広報活動を実施する。</p> <p>・アドミッション・ポリシーに適合する学生を確保するため、学生選抜方法を検証し、必要に応じて改善を行う。</p>		<p>・一般選抜において、定員の3倍程度の志願者を確保する。</p> <p>・志願者の獲得を図るために、県内外の高校訪問や出張講義を効果的に実施する。また、オープンキャンパスの実施をはじめ、各種進学説明会への参加や大学見学の受入を積極的に実施する。</p>		<p>一般選抜の志願者は、募集人員140名に対して754名となり、定員の5.39倍となる志願者を確保した。</p> <p>◇前日程：募集人員130名/志願者593名/志願倍率4.56倍 ◇後日程：募集人員10名/志願者161名/志願倍率16.1倍</p> <p>志願者獲得のため、県内外の高校訪問や出張講義をオンラインも活用しながら効果的に実施した。また、高校等を対象にしたオープンキャンパスを2回実施したほか、各種進学説明会への参加、大学見学の受入を積極的に実施した。</p> <p>◇高校訪問 ・春学期 98校(県内46校、県外52校) ・秋学期 72校(県内48校、県外24校) ◇出張講義 12回実施(県内8校、県外4校) ◇オープンキャンパス ・第1回 7/2実施 255名参加(高校生 228名) ・第2回 10/29実施 199名参加(高校生 134名) ◇進学説明会 ・本学主催 8回開催 延べ244名参加 ・業者主催 6回開催 延べ758名参加 うち8回はオンラインで実施(対象25名) ◇大学見学 5回受入 延べ141名参加</p>	A	数値目標である定員の3倍(420名)を上回る754名(5.39倍)の志願者を確保し、数値目標の達成度110%以上(462名)であることから、A評価とした。	数値目標	28
<p>・県内からの志願者増加のために、県内高校との懇談会や高大連携事業を実施する。</p>		<p>・県内からの志願者増加のために、県内高校との懇談会や高大連携事業を実施する。</p>		<p>青森県内の高等学校を対象に「青森公立大学入学者選抜に関する高校関係者との懇談会」を開催した。また、青森市内の高校生を対象とした高大連携事業特別講座を2回開催した。</p> <p>◇入学者選抜に係る高校関係者との懇談会 ・日時 5/18 13:30～14:30 ・参加者 県内高等学校 51校(51名) ◇高大連携特別講座 ・第1回 7/6 17:00～18:30 市内10校、180名が参加 ・第2回 10/5 17:00～18:30 市内8校、112名が参加</p>	B		拡充・重点	29
<p>・戦略的広報実施のために、本学教員で構成されたデータ分析チームの分析結果をもとに、対象地域や実施時期など効果的な広報手段を検討し、順次実施していく。</p>		<p>・戦略的広報実施のために、本学教員で構成されたデータ分析チームの分析結果をもとに、対象地域や実施時期など効果的な広報手段を検討し、順次実施していく。</p>		<p>データ分析チームから提供された情報を参考に、第1回オープンキャンパスの申込時期、総合選抜1期及び一般選抜の出願期間に合わせて、本学に興味・関心を持つと考えられる学力層で、出願実績のある地域に対して、Web-DMを2,000通ずつ3回の合計6,000通を送信した。更に、一般選抜の出願時期にあわせて、インターネット広告の配信を行ったほか、北海道(道南地域)及び福島県への高校訪問を実施した。</p>	B		拡充・重点	31
<p>・アドミッション・ポリシーに適合する学生を確保するために、令和7年度入試からの大学入学者共通テスト実施科目の変更への対応を検討し、令和4年度中に公表を行う。</p>		<p>・アドミッション・ポリシーに適合する学生を確保するために、令和7年度入試からの大学入学者共通テスト実施科目の変更への対応を検討し、令和4年度中に公表を行う。</p>		<p>令和7年度入試からの大学入学者共通テスト実施科目の変更等に伴う本学の入学者選抜における変更点について、12月22日にホームページで公表した。</p>	B			32

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

1 教育に関する目標を達成するための措置

※凡例 年度計画欄の下線：新規・数値目標又は重点的な取組

中期計画 実施事項及び内容		年度計画 実施事項及び内容		業務の実績(計画の進捗状況)	自己評価	自己評価の理由	備考	No.	
<p>②博士課程(前期・後期)の学生確保の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入学定員と同数程度の志願者を常に確保する。</li> <li>・学部教育との連携の円滑化を図り、学部からの進学を促進させる。</li> <li>・社会人入学者を確保するため、行政機関や民間企業等への働き掛けを充実させる。</li> <li>・入学者選抜説明会を効果的に実施するとともに、入試に係る相談体制を充実させる。</li> <li>・社会的ニーズに見合った教育の実施体制及び履修証明プログラム等の内容を検証し、必要に応じて改善を行う。</li> </ul>		<p>・入学定員と同数程度の志願者を確保する。</p> <p>・学部教育との連携の円滑化を図るために、キャリアアセスメントにおいて、大学院進学希望者の情報を把握し、適切な情報提供を行う。また、大学院進学促進ホスター学内に掲示することや、成績優秀者に対して大学院進学の情報提供を行うなどの学内広報を実施する。</p> <p>・社会人入学者を確保するための取組として、広報手段の改善を図るとともに、行政機関や民間企業を効果的に訪問する。</p> <p>・遠方からの入学生志願者やコロナ禍における対応として、オンライン等での進学相談を実施する。</p>							<p>博士前期課程4名、博士後期課程2名、合計6名の入学定員に対して、志願者は5名となった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇大学院第1期募集 10/22選抜実施                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・博士前期課程 志願者2名</li> <li>・博士後期課程 志願者1名</li> </ul> </li> <li>◇大学院第2期募集 2/11選抜実施                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・博士前期課程 志願者2名</li> <li>・博士後期課程 志願者0名</li> </ul> </li> </ul>
				<p>学部教育との連携の円滑化を図るために、キャリアアセスメントで学生の進学希望情報を把握し、希望者に対して本学大学院の適切な情報提供を行った。また、大学院進学促進ホスターや学内説明会のホスターを学内に掲示し、情報提供に努めた結果、学内推薦選抜説明会に2名の参加があり、博士前期課程1名の出願につながった。</p>		B		34	
				<p>県内企業等14社にパンフレットを配布するとともに、12月にトップセールスとして理事長が県内企業等を訪問した際、大学院への進学促進を依頼した。</p> <p>新たな広報手段として、第1期募集に合せて新聞広告を掲出し、第2期募集に合せてWeb広告を2か月間掲出した。また、進学促進のホスターを作成し、青森市営バスの待合所に掲出した。</p>		B		35	
				<p>入学者選抜説明会のホスターやホームページにおいて、オンライン対応も含めた随時相談の受付も行っている旨を周知するとともに、オンライン等での進学相談を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇オンライン相談 1件</li> <li>◇電話相談 2件</li> </ul> <p>その他、入学者選抜説明会以外に、対面での随時相談を2件行った。</p>		B		36	
				<p>大学院生に対するニーズ調査をし、コロナ禍で土曜日に閉館していた図書館について、社会人の大学院生が研究しやすいように11月から土曜日の開館を再開した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇大学院生へのニーズ調査(9月)</li> </ul>		B		37	

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

1 教育に関する目標を達成するための措置

※凡例 年度計画欄の下線：新規・数値目標又は重点的な取組

u003c/pu003e

中期計画		年度計画		業務の実績(計画の進捗状況)	自己評価	自己評価の理由	備考	No.
実施事項及び内容	実施事項及び内容	実施事項及び内容	実施事項及び内容					
<p>(5) 学生への支援に関する目標を達成するための措置</p> <p>① 学生生活支援</p> <p>【学生課程】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活困窮者等に対する授業料減免や各種奨学金制度の情報提供等、学生生活支援を充実させる。</li> <li>・課外活動の活性化を支援するための施設・設備を充実させる。</li> <li>・後援会及び同窓会の活動支援を行う。</li> <li>・社会活動における学生と地域との交流を支援する。</li> <li>・学生生活のあらゆる面について、学生の不安や問題を的確に把握し、必要な支援を行う。</li> <li>・食堂や売店などの福利厚生施設及び内容の充実を図る。</li> </ul>	<p>年度計画</p> <p>実施事項及び内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業料減免制度や各種奨学金制度等に関する積極的な情報発信を行い、必要に応じて学内の取組等の見直しを行う。</li> <li>・課外活動活性化のため、サークルに対して施設・設備に関するニーズ調査を実施し、必要に応じて改善する。</li> <li>・後援会及び同窓会の事務局として、円滑な運営・活動ができるよう支援する。</li> </ul>	<p>業務の実績(計画の進捗状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 授業料減免や各種奨学金制度等に関する情報ホームページや学内掲示等で情報発信を行った。また、新型コロナウイルス感染症の影響により、授業料の納入が困難と認められる場合の授業料の徴収猶予又は分割納入の特別措置について、学内規程等を改正し、継続して取扱いを実施した。</li> <li>◇ 徴収猶予 春学期11名 秋学期13名</li> <li>◇ 分割納入 春学期10名 秋学期 9名</li> </ul>	B	38				
		<p>実施事項及び内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍において学生の不安や問題を的確に把握し、学生が安心して学生生活を送ることができるよう、事務職員が対応する「学生相談室」を引き続き開設する。</li> </ul>	<p>実施事項及び内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ ニーズ調査期間(11/14～12/14)</li> <li>◇ 後援会</li> <li>・総会(新型コロナウイルス感染症拡大の観点から中止)</li> <li>・役員会(4/16、7/30、1/21)</li> <li>◇ 同窓会</li> <li>・総会(11/26:オンライン)</li> <li>・理事会(9/23、11/12: 両日オンライン)</li> </ul>	<p>業務の実績(計画の進捗状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ サークル活動の活性化のため、施設・設備に関するニーズ調査を実施した。</li> <li>◇ ニーズ調査期間(11/14～12/14)</li> <li>◇ 後援会</li> <li>・総会(新型コロナウイルス感染症拡大の観点から中止)</li> <li>・役員会(4/16、7/30、1/21)</li> <li>◇ 同窓会</li> <li>・総会(11/26: オンライン)</li> <li>・理事会(9/23、11/12: 両日オンライン)</li> </ul>	B	39		
		<p>実施事項及び内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生が地域の社会活動に参加しやすいよう、地域の雇いの情報提供及びボランティア募集情報提供等の支援を行う。</li> </ul>	<p>実施事項及び内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 地域情報提供 53件</li> <li>◇ ボランティア募集に係る情報提供 7件</li> <li>◇ R4地域福祉サポーター登録学生数 36名</li> <li>◇ 「APCまちなかしかしあへらあ～s」の活動 4件</li> </ul>	<p>業務の実績(計画の進捗状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 学内掲示板に地域情報及びボランティア情報掲載し、情報提供を行った。</li> <li>◇ 地域の雇いの情報提供 53件</li> <li>◇ ボランティア募集に係る情報提供 7件</li> <li>◇ R4地域福祉サポーター登録学生数 36名</li> <li>◇ 「APCまちなかしかしあへらあ～s」の活動 4件</li> </ul>	B	41		
		<p>実施事項及び内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍において学生の不安や問題を的確に把握し、学生が安心して学生生活を送ることができるよう、事務職員が対応する「学生相談室」を引き続き開設する。</li> </ul>	<p>実施事項及び内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ コロナ禍において学生の不安や問題を的確に把握し、学生が安心して学生生活を送ることができるよう、事務職員が対応する「学生相談室」を引き続き開設した。令和4年度から対面の相談に加え、メールやオンラインでの相談も行った。</li> <li>◇ 利用者数：春学期：140名、秋学期：46名</li> </ul>	<p>業務の実績(計画の進捗状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 事務窓口及び保健室において、学生からの相談を随時受け付けるとともに、事務職員が対応する「学生相談室」を引き続き開設した。令和4年度から対面の相談に加え、メールやオンラインでの相談も行った。</li> <li>◇ 利用者数：春学期：140名、秋学期：46名</li> </ul>	B	重点	42	
		<p>実施事項及び内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食堂や売店などの福利厚生施設の満足度向上を図るため、モニタリング等を実施し、改善に向けた取組を行う。</li> </ul>	<p>実施事項及び内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 食堂及び売店の満足度向上を図るため、利用者へのアンケート調査を実施し、委託事業者にアンケート結果を報告した。</li> </ul>	<p>業務の実績(計画の進捗状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 食堂及び売店の満足度向上を図るため、利用者へのアンケート調査を実施した。</li> </ul>	B		43	
		<p>実施事項及び内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学院特待奨学生審査基準を適正に運用する。</li> </ul>	<p>実施事項及び内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 博士課程(前期・後期)</li> <li>・大学院特待奨学生審査基準の適正な運用を図る。</li> </ul>	<p>業務の実績(計画の進捗状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 大学院特待奨学生審査基準に従い、継続及び新規認定の審査を実施した。</li> <li>◇ 継続申請者(2名)：2名認定</li> <li>◇ 新規申請者(2名)：2名認定</li> </ul>	B		44	

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

1 教育に関する目標を達成するための措置

※凡例 年度計画欄の下線：新規・数値目標又は重点的な取組

中期計画 実施事項及び内容		年度計画 実施事項及び内容		業務の実績(計画の進捗状況)	自己評価	自己評価の理由	備考	No.	
<p>②キャリア支援 【学上課程】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・就職を希望する全ての学生が就業できるような、キャリアセンターを中心としたキャリア支援体制の強化を充実させる。</li> <li>・オンライン求人情報管理システムを活用した、学生への情報提供体制を推進する。</li> <li>・企業連携推進員を中心とした県内外の企業訪問を計画的に行い、就職先の新規開拓を図る。</li> <li>・インターンシップへの参加促進など、低学年時からキャリア支援を充実させる。</li> <li>・OB・OGとの連携を図り、就職支援ネットワークの強化を図る。</li> <li>・全国平均値を上回る就職率を毎年維持する。</li> <li>・過去3年間で(平成30年度～令和2年度)の平均を上回る、県内就職率を維持する。</li> </ul>		<p>学生の就職活動への実践的なサポートツールとして「就活ハンドブック」を作成し、3年生と教員へ配布する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍において県外を就職活動の拠点とする学生にも対応できるように、Webツールを活用して相談業務を行う。</li> <li>・オンライン求人情報管理システムの運用改善を行い、企業・インターンシップ情報の検索機能に加え、学生への情報発信にも活用し、支援体制の強化につなげる。</li> </ul>		<p>就活ハンドブックを作成し、6月に3年次生及び全教員に配付した。また、7月に就活ハンドブックの使い方を講座を実施し、効果的な使用方法について周知を行った。</p> <p>◇「就活ハンドブック」・「キャリアステーション(学内求人検索サイト)」の使い方を講座 7/7実施 参加者101名</p>	B				45
				<p>県内就職に対する情報提供を充実させるために、県内企業及び県内に事業所を置く県外企業へ企業連携推進員を中心として積極的に企業訪問を行い、採用動向や求める人材等の求人情報を学生に提供する。また、コース教を拡充した県内企業バスツアーを継続して実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県内就職に対する情報提供を充実させるために、県内企業及び県内に事業所を置く県外企業を積極的に訪問し、情報交換を行った。また、県内企業バスツアー15コースを継続して実施した。</li> <li>◇県内企業訪問 98社</li> <li>◇県内企業バスツアー 10/3～10/28</li> <li>◇15コース、協力企業団体46社 参加者：延べ239名</li> </ul>	B			拡充 ・ 重点	47
				<p>県内就職に対する情報提供を充実させるために、県内企業及び県内に事業所を置く県外企業を積極的に訪問し、情報交換を行った。また、県内企業バスツアー15コースを継続して実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇県内企業訪問 98社</li> <li>◇県内企業バスツアー 10/3～10/28</li> <li>◇15コース、協力企業団体46社 参加者：延べ239名</li> </ul>	B			重点	48
				<p>春学期のオリエンテーションやキャリア形成講座において、1、2年次生に向けてキャリアセンターの概要説明や利用方法等について周知を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇春学期オリエンテーション 計551名参加</li> <li>◇第1回キャリア形成講座(1年次) 5/21実施 305名参加</li> </ul>	B				49
				<p>インターンシップ参加の意義を理解し、積極的な参加を促すためインターンシップガイダンスを開催する。また、企業人事担当者や協力し、インターンシップの有効性や参加するメリットについて学ぶ機会を提供した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇インターンシップガイダンス 6/23実施 参加者124名</li> </ul>	B				50
				<p>11月に各回3名の社会で活躍する卒業生を招き、座談会形式で話し合う懇談会を3回実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇社会で活躍する本学卒業生との懇談会(11/9、11/17、11/22実施)延べ24名参加</li> </ul>	B				51

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

1 教育に関する目標を達成するための措置

※凡例 年度計画欄の下線：新規・数値目標又は重点的な取組

u003c/pu003e

中期計画 実施事項及び内容		年度計画 実施事項及び内容		業務の実績(計画の進捗状況)	自己評価	自己評価の理由	備考	No.
【博士課程(前期・後期)】 ・就職を希望する大卒院生へのキャリア支援を充実させる。	・学部学生向けに実施する就職ガイダンスの情報発信や、就職相談のためにキャリアセンターの利用を促し、キャリア支援を実施する。	・過去3年間(平成30年度～令和2年度)の平均を上回る県内就職率を維持する。	・全国平均値を上回る就職率を維持する。	令和4年度の就職率は97.3%であり、全国平均値の就職率(97.3%)と同水準の就職率となった。	B	全国平均値(97.3%)を上回る就職率ではないが、数値目標の達成度が90%以上(87.6%)のため、B評価とした。	数値目標	52
		・過去3年間(平成30年度～令和2年度)の平均を上回る県内就職率を維持する。	・過去3年間の平均就職率(38.9%)を上回る県内就職率ではないが、No.48にもあるとおり、限内の就職率を維持するため、就職率は行っており、数値目標の達成度90%以上(35.0%)のため、B評価とした。	令和4年度の県内就職率は35.3%であり、過去3年間の平均値を下回る県内就職率となった。 ◇H30～R2の平均値：38.9%	B	過去3年間の平均就職率(38.9%)を上回る県内就職率ではないが、No.48にもあるとおり、限内の就職率を維持するため、就職率は行っており、数値目標の達成度90%以上(35.0%)のため、B評価とした。	数値目標	53
第2-1 教育に関する目標を達成するための措置				キャリアステーションを活用し、大卒院生にも就職ガイダンス等の情報を適切に発信した。令和4年度修了者もキャリアセンターを利用し、就職活動を行い、就職決定につながった。	B			54
				S：年度計画をはるかに上回って実施している。	0	S、A又はBの割合		
				A：年度計画を上回って実施している。	2	100.0%		
				B：年度計画をおおむね実施している。	52			
				C：年度計画を十分には実施していない。	0	C又はDの割合		
				D：年度計画を実施していない。	0			
				小項目別評価 計	54	0.0%		

特記事項

備考

なし

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

1 教育に関する目標を達成するための措置

※凡例 年度計画欄の下線：新規・教値目標又は重点的な取組

中期計画		業務の実績(計画の進捗状況)	自己評価	自己評価の理由	備考
実施事項及び内容	年度計画 実施事項及び内容				

大項目別評価(中期計画の進捗状況)					自己評価	
<p>(1) 学生の育成については、大学基礎演習等を通じて、学生に対し本学の教育目標・教育方針の周知を徹底するとともに、授業科目の到達目標・評価基準をシラバスに明示するなど、適切な授業運営及び成績評価の実施、学生の学習成果を可視化した成績チャートの学生本人への通知や一部の学生面談での活用などの活用をすることにより、本学が目指す「経営経済の専門性を持った教養人の育成」が図られた。</p> <p>(2) 教育内容等</p> <p>①教育プログラムの検証・再編については、学生に対する授業評価に関するアンケート結果等を踏まえた授業内容についてシラバスに掲載し、必要な改善を図った。</p> <p>②教育プログラムの改善については、学部及び大学院単位でのFD研修の実施、初年次教育(大学基礎演習など)の検証・改善、他大学との単位互換制度の運用、アクティブラーニング室の有効活用など教育方法の改善を図った。</p> <p>なお、新型コロナウイルス感染症防止の観点から、各大学との単位互換は中止することとなった。</p> <p>③グローバル化への対応については、留学・語学研修事業として、リモート留学事業のための体制整備、1~4年次の英語科目でのeラーニングの活用をはじめ、オンラインで海外研究者との研究事業を実施するなど、海外における教育機会の充実を図った。</p> <p>なお、新型コロナウイルス感染症防止の観点から、海外へ渡航する留学事業は中止することとした。</p> <p>④人間としての魅力を高めるための教育については、現行カリキュラムの教養科目を継続し、授業評価に関するアンケート結果等を踏まえ、教養科目の充実を図った。</p> <p>(3) 教育の実施体制</p> <p>①教員の教育指導能力の向上については、教員の指導力向上のため、学部及び大学院単位でのFD研修を実施するとともに、授業評価に関するアンケート結果等を踏まえ、指導能力の向上を図った。</p> <p>②教育環境を整備については、202・204・422・423講義室のプロジェクト・ディスプレイ・スクリーン・音響等の設備更新や図書館IT学習室Bの改装や図書館IT学習室Cの運用、TA制度の実施など、良好な学習環境を整えるとともに、国際芸術センター青森を活用した授業(送付科目)の実施や学内LIVE中継システムを活用した授業の実施、ICTを活用したリモート留学・eラーニングの活用するなど、教育機会の充実を図るため、施設及びICTの活用を図った。</p> <p>③学習環境の整備については、授業評価に関するアンケート等の結果から、学習環境に関する学生のニーズを把握し、教室のプロジェクト等、学修環境の整備を行うとともに、大学院生にPCを貸与し、学習環境の利便性の向上を図った。</p> <p>(4) 学生の受入</p> <p>①学生課程の学生確保については、オープンキャンパスをはじめ、積極的な県内外への高校訪問やオンラインでも活用した出張講義・大学見学・進学説明会を実施するとともに、県内の高等学校を対象とした入学者選抜に関する懇談会の開催、青森市内の高校生を対象とした高大連携特別講座の実施、データ分析を基にした戦略的なWeb-DMの発送するなど、効果的に学生募集活動を実施したこと、入学者数を確保した。</p> <p>【入学者数/入学者志願者数】 令和4年度：322名/925名 令和3年度：318名/845名 令和2年度：320名/842名</p> <p>②博士課程(前期・後期)学生確保の強化については、学内外での大学院入学者選抜説明会をはじめ、キャリアアセスメントでの進学希望者の情報収集、本学卒業生が就職している県内企業141社へのパンフレットの送付、トップセオリスとしての理事長の県内企業等への訪問(パンフレット設置依頼)、新聞広告の掲載、青森市富バス停留所への進学促進ポスターの掲載、Webツール等の活用を含めメールや電話での相談体制を充実させるなど、学生確保の強化に努め、入学者数を確保した。また、大学院生へのヒアリング結果を踏まえ、社会人の大学院生が研究しやすいように図書館の土曜日開館を再開した。</p> <p>【入学者数/入学者志願者数】 令和4年度：3名/6名 令和3年度：5名/7名 令和2年度：2名/3名</p> <p>(5) 学生への支援</p> <p>①学生生活支援については、授業料減免制度や奨学金の情報提供をはじめ、コロナ禍において経済的に困難に陥っている学生を支援するための授業料の徴収猶予や分割納入が可能となる規程等の改正、サークルに対してのニーズ調査の実施、後援会及び同窓会活動の支援、ボランティアアセスメントを軸としてwebツールも活用した相談や面接練習をはじめ、企業連携推進員等による求人開拓、採用担当者や本学卒業生と連携した各種ガイダンスの実施、就活ハンドブックの配付、オンライン求人情報管理システムの運用改善、県内企業バスツアーの実施など、キャリア支援については、キャリアアセスメントの実施をすなど、学生生活に関する各種支援の充実を図った。また、大学院特待奨学生制度を適正に運用した。</p> <p>②キャリア支援については、キャリアアセスメントを軸としたwebツールも活用した相談や面接練習をはじめ、企業連携推進員等による求人開拓、採用担当者や本学卒業生と連携した各種ガイダンスの実施、就活ハンドブックの配付、オンライン求人情報管理システムの運用改善、県内企業バスツアーの実施など、キャリア支援については、キャリアアセスメントの実施をすなど、学生生活に関する各種支援の充実を図った。</p> <p>【本学就職率/全国】 令和4年度：97.3%/97.3% 令和3年度：97.5%/95.8% 令和2年度：99.3%/96.0%</p> <p>【県内就職率】 令和4年度：35.3% 令和3年度：40.0% 令和2年度：41.0%</p>						4

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

2 研究に関する目標を達成するための措置

※凡例 年度計画欄の下線：新規・数値目標又は重点的な取組

u003c/pu003e

中期計画		年度計画		業務の実績(計画の進捗状況)	自己評価	自己評価の理由	備考	No.
実施内容及び内容	実施事項及び内容							
<p>(1) 研究内容に関する目標を達成するための措置</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的及び応用的研究を推進する。</li> <li>・地域課題・国際的課題の研究を推進する。</li> </ul>	<p>・基礎研究及び応用研究を推進するため、教員及び研究員に対し、個人研究費や戦略的研究助成事業により、適正な研究費を配分する。</p>	<p>・基礎研究及び応用研究を推進するため、教員及び研究員に対し、個人研究費や戦略的研究助成事業により、適正な研究費を配分した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇個人研究費 教員690千円、教育担当特別教授400千円、特任教授300千円、研究員140千円</li> <li>◇戦略的研究助成事業 指名型：2件676千円 公募型：2件246千円</li> </ul>	B	55				
<p>(2) 研究水準及び研究成果に関する目標を達成するための措置</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高い研究成果を顕彰する。</li> <li>・教員の研究成果をホームページ及びマスメディア等の活用により学内外へ積極的に情報発信する。</li> <li>・公開講座を開催するなど、研究成果を社会還元する。</li> <li>・海外研究者と共同研究事業を推進する。</li> </ul>	<p>・地域課題や国際的課題の研究を推進するため、個人研究費や戦略的研究助成事業により、適正な研究費を配分するほか、青森学術文化振興財団助成事業などの外部資金の活用を図る。</p>	<p>基礎研究及び応用研究を推進するため、教員及び研究員に対し、個人研究費や戦略的研究助成事業により、適正な研究費を配分するとともに、青森学術文化振興財団助成事業を活用し、事業を推進した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇個人研究費(No.55再掲)</li> <li>◇戦略的研究助成事業(No.55再掲)</li> <li>◇青森学術文化振興財団助成採択件数 <ul style="list-style-type: none"> <li>・公開講座開催事業 4件</li> <li>・学術文化振興事業 1件</li> <li>・研究事業(チャレンジ)2件</li> <li>・研究事業(一般) 4件</li> </ul> </li> </ul>	B	56				
<p>(2) 研究水準及び研究成果に関する目標を達成するための措置</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高い研究成果を顕彰する。</li> <li>・教員の研究成果をホームページ及びマスメディア等の活用により学内外へ積極的に情報発信する。</li> <li>・公開講座を開催するなど、研究成果を社会還元する。</li> <li>・海外研究者と共同研究事業を推進する。</li> </ul>	<p>・大学の地位を高めたと認められる研究成果を顕彰する。</p>	<p>各教員から提出される研究業績を戦略的研究助成事業取扱要領に基づき検討したが、著しく高い研究成果として顕彰に該当する業績はなかった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇顕彰実績(現行制度制定後以降) <ul style="list-style-type: none"> <li>◇130年度：2件、R1～R4年度：0件</li> </ul> </li> </ul>	B	57				
<p>(2) 研究水準及び研究成果に関する目標を達成するための措置</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高い研究成果を顕彰する。</li> <li>・教員の研究成果をホームページ及びマスメディア等の活用により学内外へ積極的に情報発信する。</li> <li>・公開講座を開催するなど、研究成果を社会還元する。</li> <li>・海外研究者と共同研究事業を推進する。</li> </ul>	<p>・教員の研究成果を社会還元するため、青森ケーブリングテレビでの公開講座の放映やホームページでの学術リポジトリや論纂の公開など、積極的に情報発信を行う。</p>	<p>公開講座の実施及び学術リポジトリや論纂の公開など、積極的に情報発信を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇公開講座の実施、青森ケーブリングテレビで放送 <ul style="list-style-type: none"> <li>・2講座：大学院公開セミナー・ねぶた学</li> <li>・放送回数：合計39回</li> </ul> </li> <li>◇青森駅前「アウガル」内に、まちなかラボを設置。(大学の授業スペース、学生のまちなかへのフイールドワークの拠点、地方自治体の方々の会議スペースなど)</li> <li>◇学術リポジトリで論文1件、調査・報告1件の公開</li> <li>◇3/31青森公立大学論纂8巻第1・2号の発行</li> </ul>	B	58				

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

2 研究に関する目標を達成するための措置

※凡例 年度計画欄の下線：新規・数値目標又は重点的な取組

u

中期計画 実施事項及び内容		年度計画 実施事項及び内容		業務の実績(計画の進捗状況)	自己評価	自己評価の理由	備考	No.	
<p>(3) 研究実施体制等の整備に関する目標を達成するための措置</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学生が研究活動に参加できる環境整備の充実を図る。</li> <li>・ 地域連携センターの研究機能の充実及び共同研究並びに産学官学連携を推進する。</li> <li>・ 教員サバティカル制度(長期研修制度)の活用を図る。</li> <li>・ 戦略的志向に基づく研究費の適正な配分を行う。</li> </ul>		<p>・ 教員の研究成果の地域還元を推進するため、地域住民を対象とした公開講座を5講座開催する。</p> <p>・ 学会やワークショップ、研究会等への参加、招聘又はオンラインにより、海外の研究者との共同研究及び交流を推進する。(再掲)</p>							<p>地域住民を対象とした公開講座を5講座開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 青森公立大学大学院公開セミナー(全4回)</li> <li>・ 浅虫子ども大学(全2回)</li> <li>・ れぶた字「メディアからみるねぶた祭」(全6回)</li> <li>・ 青森圏域連携中核都市圏公開講座(全3回/蓬田村、浪岡地区、今別町)</li> <li>・ ことばと文化(全1回)</li> </ul>
<p>(3) 研究実施体制等の整備に関する目標を達成するための措置</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学生が研究活動に参加できる環境整備の充実を図る。</li> <li>・ 地域連携センターの研究機能の充実及び共同研究並びに産学官学連携を推進する。</li> <li>・ 教員サバティカル制度(長期研修制度)の活用を図る。</li> <li>・ 戦略的志向に基づく研究費の適正な配分を行う。</li> </ul>		<p>・ セミ活動やフェイワードワーク等を円滑に実施できるよう交通手段を確保する。</p>		<p>インターネットを活用し、Zoom等で海外の研究者との研究事業を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ACTA International Conference(オーストラリア/ブリスベン)での研究発表[香取(員)教授、ほこたて未来大学及び海外(ニュージージーランド)の研究者]</li> <li>・ パーチャル・コミュニティMHCのフロンティア研究事業[地域連携センタープロジェクト事業：遠藤教授、Bakofa Prairie Public School (米国)及びセブノーマル大学(フィリピン)の研究者]</li> </ul>	B		再掲 No. 14	60	
<p>(3) 研究実施体制等の整備に関する目標を達成するための措置</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学生が研究活動に参加できる環境整備の充実を図る。</li> <li>・ 地域連携センターの研究機能の充実及び共同研究並びに産学官学連携を推進する。</li> <li>・ 教員サバティカル制度(長期研修制度)の活用を図る。</li> <li>・ 戦略的志向に基づく研究費の適正な配分を行う。</li> </ul>		<p>・ セミ活動やフェイワードワーク等を円滑に実施できるよう交通手段を確保する。</p>		<p>移動用車両を常時1台借上げしたほか、貸切バスを活用し、交通手段を確保した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 地域貢献活動の推進                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 車両借上げ(10人乗り)1台</li> <li>・ ゼミでの利用実績 62回</li> </ul> </li> <li>◇ バス利用実績                     <ul style="list-style-type: none"> <li>春学期：14台 秋学期：0台</li> </ul> </li> </ul>	B			61	
<p>(3) 研究実施体制等の整備に関する目標を達成するための措置</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学生が研究活動に参加できる環境整備の充実を図る。</li> <li>・ 地域連携センターの研究機能の充実及び共同研究並びに産学官学連携を推進する。</li> <li>・ 教員サバティカル制度(長期研修制度)の活用を図る。</li> <li>・ 戦略的志向に基づく研究費の適正な配分を行う。</li> </ul>		<p>・ 地域連携センターにおける受託研究等の研究活動を推進するとともに、青森市産官学連絡会議等の共同研究活動や産学官学との連携事業を推進する。</p>		<p>連携協定を締結している中泊町から1件の事業を受託したほか、昨年度に引き続き、企業からの研究依頼を1件受託した。また、「青森地域大学間連携協議会」他2件の産官学連携の取組に参画し、連携事業を推進した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 受託事業                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 観光誘客を図るための青森公立大学連携による観光資源及びコミュニケーション再構築事業(中泊町)</li> </ul> </li> <li>◇ 受託研究                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 情報リテラシー教育におけるナレローの効果測定及びレビュー(株式会社ナレロー)</li> </ul> </li> <li>◇ 産官学連携先                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 青森地域大学間連携協議会</li> <li>・ 青森市産官学連絡会議(AOMORI SIX)</li> <li>・ 青森地域産学連携懇談会</li> </ul> </li> </ul>	B			62	



第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

2 研究に関する目標を達成するための措置

※凡例 年度計画欄の下線：新規・数値目標又は重点的な取組

No.	中期計画		業務の実績(計画の進捗状況)	自己評価	自己評価の理由	備考
	実施事項及び内容	年度計画 実施事項及び内容				
63	<p>・教員職員に対し、教員サバティカル制度(長期研修制度)の募集を行うとともに、教員職員が活用しやすい制度の運用を検証し、必要に応じて見直しを実施する。</p> <p>・戦略的研究費の適正な配分により、大学の教育研究上有意義と認められる研究に対する支援を行う。</p> <p>・教職員に研究費(地域貢献活動推進費)を配分し、地域貢献に係る研究等を促進する。</p>	<p>・市が抱える政策課題等の解決に向けて、青森市産官学連絡会議(AOMORI SIX)等と連携し、共同研究等を実施する。</p> <p>・青森リモートワーク人材誘致研究会に参画し、青森市及び青森圏域での産官学等からのリモートワーク人材の誘致及び移住・定住に関する研究を推進する。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の状況から決定の判断を令和4年度に見送られていた申請1件(申請は令和3年度)について、選考した結果、令和4年度中のサバティカル実施を許可した。また、令和4年度に行なった募集については、申請が1件あったが選考中に申請者が取下げをした。</p>	B		
			<p>大学の教育研究上有意義と認められる研究として、戦略的研究助成事業において、指名型で2件を採択するとともに、公募型での募集を行い、3件の応募があり、2件246千円の事業を採択し、支援した。</p> <p>◇配分実績 指名型：2件676千円 公募型：2件246千円</p>	B		
64	<p>・市が抱える政策課題等の解決に向けて、青森市産官学連絡会議(AOMORI SIX)等と連携し、共同研究等を実施する。</p> <p>・青森リモートワーク人材誘致研究会に参画し、青森市及び青森圏域での産官学等からのリモートワーク人材の誘致及び移住・定住に関する研究を推進する。</p>	<p>青森市産官学連絡会議(AOMORI SIX)が開催した「合同学修・研究発表会」(Web開催2/20～3/31)に参画した。</p> <p>◇研究発表2件(学部1件、大学院1件)</p>	<p>教職員(専任・兼任)への研究費(地域貢献活動推進費)の配分を行った。</p> <p>◇地域貢献活動の推進 地域貢献活動推進費：12名 1,530千円</p>	B		
			<p>青森リモートワーク人材誘致研究会に参画し、「アオモリ・ワークショップ体験モニター」、「クリエイターワークショップ体験モニター」の実施に際し、ワーク及び宿泊場所として国際交流ハウスの利用を提供するほか、ACAC施設見学の案内等を行った。</p> <p>◇7刊・ワークショップ体験モニター 80組149名 ◇クリエイターワークショップ体験モニター 21組 35名</p>	B		重点
65	<p>・市が抱える政策課題等の解決に向けて、青森市産官学連絡会議(AOMORI SIX)等と連携し、共同研究等を実施する。</p> <p>・青森リモートワーク人材誘致研究会に参画し、青森市及び青森圏域での産官学等からのリモートワーク人材の誘致及び移住・定住に関する研究を推進する。</p>	<p>青森市産官学連絡会議(AOMORI SIX)が開催した「合同学修・研究発表会」(Web開催2/20～3/31)に参画した。</p> <p>◇研究発表2件(学部1件、大学院1件)</p>	<p>教職員(専任・兼任)への研究費(地域貢献活動推進費)の配分を行った。</p> <p>◇地域貢献活動の推進 地域貢献活動推進費：12名 1,530千円</p>	B		
			<p>青森リモートワーク人材誘致研究会に参画し、「アオモリ・ワークショップ体験モニター」、「クリエイターワークショップ体験モニター」の実施に際し、ワーク及び宿泊場所として国際交流ハウスの利用を提供するほか、ACAC施設見学の案内等を行った。</p> <p>◇7刊・ワークショップ体験モニター 80組149名 ◇クリエイターワークショップ体験モニター 21組 35名</p>	B		
66	<p>・市が抱える政策課題等の解決に向けて、青森市産官学連絡会議(AOMORI SIX)等と連携し、共同研究等を実施する。</p> <p>・青森リモートワーク人材誘致研究会に参画し、青森市及び青森圏域での産官学等からのリモートワーク人材の誘致及び移住・定住に関する研究を推進する。</p>	<p>青森市産官学連絡会議(AOMORI SIX)が開催した「合同学修・研究発表会」(Web開催2/20～3/31)に参画した。</p> <p>◇研究発表2件(学部1件、大学院1件)</p>	<p>教職員(専任・兼任)への研究費(地域貢献活動推進費)の配分を行った。</p> <p>◇地域貢献活動の推進 地域貢献活動推進費：12名 1,530千円</p>	B		
			<p>青森リモートワーク人材誘致研究会に参画し、「アオモリ・ワークショップ体験モニター」、「クリエイターワークショップ体験モニター」の実施に際し、ワーク及び宿泊場所として国際交流ハウスの利用を提供するほか、ACAC施設見学の案内等を行った。</p> <p>◇7刊・ワークショップ体験モニター 80組149名 ◇クリエイターワークショップ体験モニター 21組 35名</p>	B		
67	<p>・市が抱える政策課題等の解決に向けて、青森市産官学連絡会議(AOMORI SIX)等と連携し、共同研究等を実施する。</p> <p>・青森リモートワーク人材誘致研究会に参画し、青森市及び青森圏域での産官学等からのリモートワーク人材の誘致及び移住・定住に関する研究を推進する。</p>	<p>青森市産官学連絡会議(AOMORI SIX)が開催した「合同学修・研究発表会」(Web開催2/20～3/31)に参画した。</p> <p>◇研究発表2件(学部1件、大学院1件)</p>	<p>教職員(専任・兼任)への研究費(地域貢献活動推進費)の配分を行った。</p> <p>◇地域貢献活動の推進 地域貢献活動推進費：12名 1,530千円</p>	B		
			<p>青森リモートワーク人材誘致研究会に参画し、「アオモリ・ワークショップ体験モニター」、「クリエイターワークショップ体験モニター」の実施に際し、ワーク及び宿泊場所として国際交流ハウスの利用を提供するほか、ACAC施設見学の案内等を行った。</p> <p>◇7刊・ワークショップ体験モニター 80組149名 ◇クリエイターワークショップ体験モニター 21組 35名</p>	B		重点
第2-2	研究に関する目標を達成するための措置		S：年度計画をはるかに上回って実施している。	0	S、A又はBの割合	
			A：年度計画を上回って実施している。	0	100.0%	
第2-2	研究に関する目標を達成するための措置		B：年度計画をおおむね実施している。	13		
			C：年度計画を十分には実施していない。	0	C又はDの割合	
第2-2	研究に関する目標を達成するための措置		D：年度計画を実施していない。	0		0.0%
			小項目別評価 計	13		

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

2 研究に関する目標を達成するための措置

※凡例 年度計画欄の下線：新規・数値目標又は重点的な取組

中期計画 実施事項及び内容	年度計画 実施事項及び内容		業務の実績(計画の進捗状況)	自己評価	自己評価の理由	備考	No.

特記事項							
備考							

なし

大項目別評価(中期計画の進捗状況)							
自己評価							
<p>(1) <b>研究内容</b>については、教員等への個人研究費や戦略的研究助成事業による研究費の配分による基礎的及び応用的研究を推進するとともに、地域連携センタープロジェクト事業や海外研究者との研究を推進し、地域課題・国際的課題の研究を推進した。</p> <p>(2) <b>研究水準及び研究成果</b>については、教員職員の研究業績等に基づき、研究成果の顕彰を検討するとともに、ホームページや学術リポジトリ、論纂及び公開講座の青森ケアーブルテレビでの放映など、学内外へ積極的に研究成果の発信を行った。また、公開講座を5講座開催し、海外研究者との研究事業を実施した。</p> <p>(3) <b>研究実施体制等の整備</b>については、学生の研究活動参加のための交通手段の確保や連携協定を締結している中泊町からの事業1件の受託、民間企業からの研究1件の受託をはじめ、産官学連携3件の取組みに参画した。また、教員職員の長期研修(サブファイナル)の募集や実施をするとともに、戦略的研究費や地域貢献活動推進費の適正な配分を行った。</p> <p>(4) <b>市の課題解決</b>については、青森市をはじめ、青森市産官学連絡協議会等と連携し、「合同学修・研究発表表紙」に参画するとともに、青森リモーターワーク人材誘致研究会に参画し、リモーターワーク人材の誘致及び移住・定住に関する研究活動を推進した。</p> <p>これらのことから、研究に係る年度計画は達成しており、中期計画の進捗状況は、順調であるものと評価する。</p>							
4							

第3 地域貢献に関する目標を達成するための措置

※凡例 年度計画欄の下線：新規・数値目標又は重点的な取組

中期計画		年度計画		業務の実績(計画の進捗状況)	自己評価	自己評価の理由	備考	No.
実施事項及び内容	実施事項及び内容	実施事項及び内容	実施事項及び内容					
<p>① 地域連携・広域連携の強化に関する目標を達成するための措置</p> <p>② 地域連携実施体制の強化</p> <p>・地域連携センターにおける各種地域連携活動の充実を図るとともに、教職員や学生がゼミ活動や課外活動において地域課題への取組やボランティア活動等の地域の活動に参加しやすい環境を整備する。</p>	<p>・県内自治体や青森市産官学連絡会議等との連携及び自治体の課題解決をテーマとしたゼミや研究活動、学生・教職員のボランティア活動への参加等を推進し、地域貢献活動を充実させる。</p>	<p>・教職員及び学生がゼミやボランティア活動で地域課題への取組や地域貢献活動に参加できるよう、地域情報の提供や移動手段の支援を行う。</p>	<p>業務の実績(計画の進捗状況)</p> <p>受託事業の調査において、ゼミ活動の一環として学生による調査活動を行った。</p> <p>◇ 地域貢献活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・青森まるっとよいどころ祭り 10/15開催 青森県観光物産館アスパム</li> <li>◇ 受託事業</li> <li>・観光誘客を図るための青森公立大学連携による観光資源及びコンテンツ再構築事業(中泊町)</li> <li>◇ 青森市産官学連絡会議(AOMORI SIX)「合同字修・研究発表会」(Web開催 2/20~3/31) 研究発表2件(学部1件、大学院1件)</li> <li>◇ 青森市学生ビジネスアイデアコンテスト 11/22開催 代表1チーム参加 参加結果 第2位及びオーディーエンス賞受賞</li> </ul>	B	68			
<p>② 地域の大学との連携</p> <p>・地域の大学間の連携を強化し、地域の課題解決に積極的に取り組む。</p>	<p>・青森地域大学間連携協議会等の連携組織に参画し、大学間連携による地域課題解決等の事業に積極的に取り組む。</p>	<p>地域情報の提供をはじめ、移動用車両を常時1台借上げしただけ、貸切バスを活用し、移動手段の支援を行った。</p> <p>◇ 地域貢献活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・車両借上げ(10人乗り)1台</li> <li>・ゼミでの利用実績 62回</li> <li>◇ バス利用実績</li> <li>春学期：14台 秋学期：0台</li> <li>◇ ボランティア募集に係る情報提供8件 R4地域福祉サポーター登録学生数 青森市除雪ボランティア：2サークル36名</li> <li>◇ 「APCまちなかしかいへらあ〜s」の活動 4件</li> </ul>	B	69				
<p>② 地域の大学との連携</p> <p>・地域の大学間の連携を強化し、地域の課題解決に積極的に取り組む。</p>	<p>・青森地域大学間連携協議会等の連携組織に参画し、大学間連携による地域課題解決等の事業に積極的に取り組む。</p>	<p>「青森地域大学間連携協議会」他2件の産官学連携の取組に参画した。</p> <p>◇ 産官学連携先</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・青森地域大学間連携協議会</li> <li>・青森市産官学連絡会議(AOMORI SIX)</li> <li>・青森地域産官学連携懇談会</li> </ul>	B	70				
<p>② 地域の大学との連携</p> <p>・地域の大学間の連携を強化し、地域の課題解決に積極的に取り組む。</p>	<p>・公立はこだて未来大学との連携協定に基づき、学生及び教員との交流事業を行い、青函地域の大学間連携を推進する。</p>	<p>「青森地域大学間連携協議会」他2件の産官学連携の取組に参画した。</p> <p>◇ 産官学連携先</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・青森地域大学間連携協議会</li> <li>・青森市産官学連絡会議(AOMORI SIX)</li> <li>・青森地域産官学連携懇談会</li> </ul>	B	71				

第3 地域貢献に関する目標を達成するための措置

※凡例 年度計画欄の下線：新規・数値目標又は重点的な取組

中期計画		年度計画		業務の実績(計画の進捗状況)	自己評価	自己評価の理由	備考	No.	
実施事項及び内容	実施事項及び内容	実施事項及び内容	実施事項及び内容						
<p>③青森県及び県内自治体、企業等との連携 ・青森県の地域課題に関する研究活動や地域事業などに参加し、青森県との連携体制を強化する。 ・県内の市町村との新たな連携を図り、大学の人材及び研究成果を活用し地域に貢献する。 ・地域の企業、NPO等との連携を推進し、地域活性化に関する活動を支援する。</p>	<p>④青森県及び県内自治体、企業等との連携 ・青森県の地域課題に関する研究活動や地域事業などに参加し、青森県との連携体制を強化する。 ・県内の市町村との新たな連携を図り、大学の人材及び研究成果を活用し地域に貢献する。 ・地域の企業、NPO等との連携を推進し、地域活性化に関する活動を支援する。</p>	<p>・県内の市町村の地域課題解決を支援するため、連携協定を締結する市町村の依頼を基に現地調査や政策提案、事業の受託、新たな連携協定に向けた調査及び検討等を行う。</p> <p>・21あおもり産業総合支援センターと連携し、地域での創業・起業を目指す市民等の支援を行うスタートアップラボ事業を実施する。また、学生の創業・起業意識及び青森市学生ビジネスアリアコンテストへの参加意識の醸成を図るため、創業・起業に係る学生向けセミナーを開催する。</p>	<p>・県内の市町村の地域課題解決を支援するため、連携協定を締結する市町村の依頼を基に現地調査や政策提案、事業の受託、新たな連携協定に向けた調査及び検討等を行う。</p> <p>・21あおもり産業総合支援センターと連携し、地域での創業・起業を目指す市民等の支援を行うスタートアップラボ事業を実施する。また、学生の創業・起業意識及び青森市学生ビジネスアリアコンテストへの参加意識の醸成を図るため、創業・起業に係る学生向けセミナーを開催する。</p>	<p>青森県との連携事業である人材育成事業「あおもり立志挑戦塾」及び「あおもり立志終業塾」の実施に協力する。ともに、教員等が青森県の各種審議会委員等に就任し、青森県の行政施策へ参画した。 ◇あおもり立志挑戦塾(全6回) ◇あおもり立志終業塾(全6回) ◇各種審議会等への就任：22件</p>	B			72	
				<p>連携協定を締結している中津町から1件の事業を受託した。 ◇受託事業 ◇観光誘客を図るための青森公立大学連携による観光資源及びコンテンツの再構築事業(中津町)</p>	B			73	
				<p>新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から利用制限をし、スタートアップラボ事業の実施を継続した。また、学生の創業・起業意識及び青森市学生ビジネスアリアコンテストへの参加意識の向上を図るため、6～7月に21あおもり産業総合支援センターと連携し、学生向けの「創業・起業セミナー」を全4回のプログラムで開催した。 ◇青森市学生ビジネスアリアコンテスト 11/22開催 代表1チーム参加 参加結果 第2位及びオーディエンス賞受賞</p>	B			重点	74
				<p>あおスタピッチ交流会(青森商工会議所)へ審査員として教員2名を派遣した。</p>	B			75	
				<p>「青森圏域連携中核都市圏ビジョン」に掲げる「大学連携」及び「一定の圏域人口の維持」に基づき、「移住・定住の推進」の2つのビジョンの達成に寄与すべく、「青森リーモーターワーク活用及び移住定住促進」をテーマに蓬田村、浪岡地区及び今別町で公開講座を開講した。 ◇青森圏域連携中核都市圏公開講座(全3回) 期間 12/8(蓬田村、浪岡地区)、12/9(今別町) 受講者 18名</p>	B			拡充 ・ 重点	76

第3 地域貢献に関する目標を達成するための措置

※凡例 年度計画欄の下線：新規・数値目標又は重点的な取組

中期計画		年度計画		業務の実績(計画の進捗状況)	自己評価	自己評価の理由	備考	No.
実施事項及び内容	実施事項及び内容	実施事項及び内容	実施事項及び内容					
2 地域還元・情報提供に関する目標を達成するための措置 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページ、広報紙、マスメディア及びまちなかラボを活用し、広く地域に人的資源や教育研究成果の情報を提供する。</li> <li>・研究成果を公表するために公開講座を過去2年間(令和元年度～令和2年度)の平均以上開催する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の研究成果を社会還元するため、青森クーブアラビでの公開講座の放映やホームページでの学術リポートリや論議の公開など、積極的な情報発信を行う。(再掲)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年報の発行やまちなかラボでの公開講座画像の閲覧等により、研究内容や地域貢献状況を広く情報提供される。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公開講座の実施及び学術リポートリや論議の公開など、積極的な情報発信を行った。</li> <li>◇公開講座の実施、青森クーブアラビで放送 <ul style="list-style-type: none"> <li>・2講座：大学院公開セミナー・ねぶた学</li> <li>・放送回数：合計39回</li> </ul> </li> <li>◇青森駅前「アワガ」内に、まちなかラボを設置。(大学院の授業スペース、学生のまちなかへのフィールドワークの拠点、地方自治体の方々の会議スペースなど)</li> <li>◇学術リポートリで論文1件、調査・報告1件の公開</li> <li>◇3/31青森公立大学論議8巻第1・2号の刊行</li> </ul>	B			再掲 No. 58	77
3 地域人材の輩出に関する目標を達成するための措置 (1) 起業・創業や地元企業による新たな領域での事業展開に挑戦する人材育成に関する目標を達成するための措置 <ul style="list-style-type: none"> <li>・市及び商工団体等と連携して、学生及び市民等に対する起業・創業支援及び人材育成に関する取組を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の研究成果の地域還元を推進するため、地域住民を対象とした公開講座を5講座開催する。(再掲)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民を対象とした公開講座を5講座開催した。</li> <li>・青森公立大学大学院公開セミナー(全4回)</li> <li>・茂虫こども大学(全2回)</li> <li>・ねぶた学「メディアからみるねぶた祭」(全6回)</li> <li>・青森領域連携中核都市圏公開講座(全3回/蓬田村、浪岡地区、今別町)</li> <li>・ことばと文化(全1回)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>まちなかラボに大学案内パンフレット、入試案内等の大字に関する情報冊子を設置・配布を行うとともに、公開講座の動画を閲覧することができる「メディアアラボ」を運営し、市民等へ大学情報を発信した。</li> <li>◇令和4年度メディアアラボ新規タイトル <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学院公開セミナー 2タイトル</li> <li>・ねぶた学 5タイトル</li> </ul> </li> </ul>	B			再掲 No. 59	78
(2) 商工団体等や地域のニーズを踏まえた実践的な人材育成に関する目標を達成するための措置 <ul style="list-style-type: none"> <li>・商工団体等と連携しながら、ICT(情報通信技術)を活用して、フィールドワークやゼミ活動等で地域や企業の実業に参画し、学生の事業創造力を育成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・商工団体等と調整し、Web会議システムを活用して、フィールドワークやゼミ活動等で地域企業の実業に参画する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・21あおり産業総合支援センターと連携し、地域での起業・創業を支援を行うスタートアップラボ事業を実施する。また、学生の起業・創業意識及び青森市学生ビジネスアイデアコンテストへの参加意欲の醸成を図るため、起業・創業に際する学生向けセミナーを開催する。(再掲)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から利用制限をし、スタートアップラボ事業の実施を継続した。また、学生の起業・創業意識及び青森市学生ビジネスアイデアコンテストへの参加意欲の向上を図るため、6～7月に21あおり産業総合支援センターと連携し、学生向けの「起業・創業セミナー」を全4回のプログラムで開催した。</li> <li>◇起業・創業セミナー 受講学生数25名</li> <li>◇青森市学生ビジネスアイデアコンテスト <ul style="list-style-type: none"> <li>11/22開催 代表1チーム参加</li> <li>参加結果 第2位及びオーディエンス賞受賞</li> </ul> </li> </ul>	B			再掲 No. 74	80
			<ul style="list-style-type: none"> <li>県内自治体の事業「共育型インタナショナル」に学生が参加し、地域の課題解決に取り組んだ。</li> <li>◇階上町「豆腐作りとイベント計画作成」2名</li> <li>◇東通村「漁業の魅力発信」2名</li> </ul>	B			重点	81

第3 地域貢献に関する目標を達成するための措置

※凡例 年度計画欄の下線：新規・数値目標又は重点的な取組

中期計画		年度計画		業務の実績(計画の進捗状況)	自己評価	自己評価の理由	備考	No.	
実施事項及び内容		実施事項及び内容							
<p>4 市への貢献に関する目標を達成するための措置</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>青森市の行政施策との緊密な連携により、行政課題の解決や地域貢献に係る活動に教員並びに学生が参加し、積極的に取り組む。</li> </ul>		<p>・市の行政課題の解決を目的とする教員の研究及びゼミ活動を積極的に推進する。</p>		<p>教員等が青森市の各種審議会委員等に就任し、青森市の行政施策へ参画した。</p> <p>◇各種審議会等への就任：21件</p>	B			82	
<p>・青森市学生ビジネスアイデアコンテストへの学生参加を積極的に推進する。</p>		<p>・青森リモートワーク人材誘致研究会に参画し、「アオモリ・ワーケーション体験モニター」、「クリエイターワーケーション体験モニター」の実施に協力した。また、リモートワーク活用及び移住定住促進をテーマとした「青森圏域連携中核都市圏公開講座」を浪岡地区(12/8)で開催した。</p> <p>◇刊行・ワーケーション体験モニター 80組149名 ◇クリエイターワーケーション体験モニター 21組 35名 ◇青森圏域連携中核都市圏公開講座 浪岡地区(12/8) 5名</p>		<p>青森リモートワーク人材誘致研究会に参画し、「アオモリ・ワーケーション体験モニター」、「クリエイターワーケーション体験モニター」の実施に協力した。また、リモートワーク活用及び移住定住促進をテーマとした「青森圏域連携中核都市圏公開講座」を浪岡地区(12/8)で開催した。</p> <p>◇刊行・ワーケーション体験モニター 80組149名 ◇クリエイターワーケーション体験モニター 21組 35名 ◇青森圏域連携中核都市圏公開講座 浪岡地区(12/8) 5名</p>	B				83
<p>・市が抱える政策課題等の解決に向けて、青森市産官学連絡会議(AOMORI SIX)等と連携し、共同研究等を実施する。(再掲)</p>		<p>・市が抱える政策課題等の解決に向けて、青森市産官学連絡会議(AOMORI SIX)等と連携し、共同研究等を実施する。(再掲)</p>		<p>学生の創業・起業意識及び青森市ビジネスアイデアコンテストへの参加意識の向上を図るため、6～7月に21あり産業総合支援センターと連携し、学生向けの「創業・起業セミナー」を全4回のプログラムで開催した。</p> <p>◇創業・起業セミナー 受講学生数25名 ◇青森市学生ビジネスアイデアコンテスト 11/22開催 代表1チーム参加 参加結果 第2位及びオーディエンス賞受賞</p>	B			84	
<p>・青森リモートワーク人材誘致研究会に参画し、青森市及び青森圏域での首都圏等からのリモートワーク人材の誘致及び移住・定住に関する研究を推進する。(再掲)</p>		<p>・青森リモートワーク人材誘致研究会に参画し、青森市及び青森圏域での首都圏等からのリモートワーク人材の誘致及び移住・定住に関する研究を推進する。(再掲)</p>		<p>青森市産官学連絡会議(AOMORI SIX)が開催した「合同学修・研究発表会」(Web開催2/20～3/31)に参画した。</p> <p>◇研究発表表2件(学部1件、大学院1件)</p>	B		再掲 No. 66	85	
<p>第3 地域貢献に関する目標を達成するための措置</p>		<p>第3 地域貢献に関する目標を達成するための措置</p>		<p>青森リモートワーク人材誘致研究会に参画し、「アオモリ・ワーケーション体験モニター」、「クリエイターワーケーション体験モニター」の実施に際し、ワーク及び宿泊場所として国際交流ハウスの利用を提供するほか、ACAC施設見学の案内等を行った。</p> <p>◇刊行・ワーケーション体験モニター 80組149名 ◇クリエイターワーケーション体験モニター 21組 35名</p>	B		再掲 No. 67	86	
				S：年度計画をはるかに上回って実施している。	0	S、A又はBの割合			
				A：年度計画を上回って実施している。	0	100.0%			
				B：年度計画をおおむね実施している。	19				
				C：年度計画を十分に実施していない。	0	C又はDの割合			
				D：年度計画を実施していない。	0	0.0%			
				小項目別評価 計	19				

第3 地域貢献に関する目標を達成するための措置

※凡例 年度計画欄の下線：新規・数値目標又は重点的な取組

中期計画 実施事項及び内容	年度計画 実施事項及び内容	業務の実績(計画の進捗状況)	自己評価	自己評価の理由	備考	No.
------------------	------------------	----------------	------	---------	----	-----

特記事項		備考
なし		

大項目別評価(中期計画の進捗状況)		自己評価
<p>1 地域連携・広域連携の強化</p> <p>①地域連携実施体制の強化については、各種地域連携活動として、青森まるっとよいところ祭りや中瀬町や中瀬町の受託事業をはじめ、青森市産官学連絡会議での合同学修・研究発表会の開催、青森市学生ビジネスアイデアコンテストへ参画(第2位及びオーディエンス賞受賞)するとともに、ホランディア勢集に係る情報提供や地域貢献活動に必要な交通手段を確保し、学生・教職員が地域の活動に参加しやすい環境を整備した。</p> <p>②地域の大学との連携については、青森地城大学間連絡協議会や青森地城産学連携懇話会などに積極的に参画するとともに、公立はこだて未来大学との連携協定に基づき、「地理情報システム(GIS)を用いた観光動線の空間分析」をテーマに、青森県及び奥羽地方の観光振興を目的とした観光動線の空間分析を実施した。</p> <p>③青森県及び奥羽地方の観光振興を目的とした観光動線の空間分析については、教員等の青森県内の各種審議会委員等への就任をはじめ、「あおもり立志塾・あおもり立志塾・あおもり立志塾」へ参画するとともに、連携協定を締結している中瀬町からの受託事業を実施した。</p> <p>④「青森圏域連携中核都市圏」の取組への参画については、「青森リモートワーク人材誘致研究会」と連携して、「リモートワーク活用及び移住定住促進」をテーマに、浪岡地区及びひがし町で公開講座を開催した。</p> <p>2 地域還元・情報提供については、ホームページや学術リポジトリ、論議及び公開講座の青森ケーブルテレビでの放映など、学内外へ積極的に研究成果の発信を行った。また、公開講座の5講座開催やまちなかラボでの情報冊子等の設置・配布、公開講座の動画閲覧できるメディアアラブを運営し、研究成果の地域還元・情報提供に努めた。</p> <p>【公開講座】令和4年度：5講座 令和3年度：5講座 令和2年度：3講座実施</p> <p>3 地域人材の輩出</p> <p>(1)起業・創業や地元企業による新たな領域での事業展開に挑戦する人材育成については、21あおもり産業総合支援センターと連携し、学生向けの「創業・起業セミナー」を開催するとともに、青森市学生ビジネスアイデアコンテストへ参加し、第2位及びオーディエンス賞を受賞した。</p> <p>(2)商工団体等や地域ニーズを踏まえた実践的な人材育成については、奥内自治体の事業「共青型インターンシップ」に学生が参加し、地域(階上町、東通村)の課題解決に取り組んだ。</p> <p>4 市への貢献については、教員等の青森市の各種審議会委員等への就任をはじめ、「青森リモートワーク人材誘致研究会」や青森市学生ビジネスアイデアコンテストへの参加などに取り組んだ。</p>	4	

これらのことから、地域貢献に係る年度計画は達成しており、中期計画の進捗状況は、順調であるものと評価する。

第4 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置

※凡例 年度計画欄の下線：新規・数値目標又は重点的な取組

中期計画 実施事項及び内容		年度計画 実施事項及び内容		業務の実績(計画の進捗状況)	自己評価	自己評価の理由	備考	No.
1 運営体制の改善に関する目標を達成するための措置 ・戦略的かつ機動的な大学運営を図る目的から、法人経営と教学全般を包括する執行部機関の運用を図る。 ・審議会等の委員等から大学運営に関する意見等を聴取し、大学運営に反映させる。		・法人経営と教学全般を包括する戦略会議を定期的に開催する。 ・大学運営の参考とするため、経営審議会、教育研究審議会等の委員等から意見聴取を行うほか、設立団体の長と役員との意見交換を実施する。						
2 人材の確保に関する目標を達成するための措置 ・大学設置基準及び大学院設置基準に定められた教員数を確保するために、積極的な募集活動により、優秀な教員の確保に取り組み。 ・SD研修や学外の研修について周知するとともに、積極的な参加を促す。 ・人材育成を図るため、SD研修や学外の研修への積極的な参加を促進する。 ・事務局の業務内容、業務分担を見直し、適正な組織体制を構築し、必要に応じて整備を行う。		・大学設置基準及び大学院設置基準に定められた教員数を確保するために、積極的な募集活動により、優秀な教員の確保に取り組み。 ・SD研修や学外の研修について周知するとともに、積極的な参加を促す。 ・事務局の業務内容、業務分担の見直し、適正な組織体制を構築し、必要に応じて見直しを行う。		SD研修や学外の研修について周知するとともに、積極的な参加を促した。 ◇SD研修会 ・8/24(発達障害を持つ学生の特性と対応、公的研究費の不正使用の防止等) ・9/1(2021年度SDプロジェクトチーム活動報告) ◇公立大学協会主催 ◇公立大学職員セミナー ◇青森市主催 ・新採用職員研修 ・新任主査被職員研修	B			88
3 人事評価の給与・昇任等への反映に関する目標を達成するための措置 ・市の人事評価制度に準じた事務職員の人事評価を早期に実施し、給与・昇任等に反映させる。 ・教員を対象とした人事評価を実施し、給与・昇任等に反映させる。		・事務局の業務内容、業務分担の見直し、適正な組織体制を構築し、必要に応じて見直しを行う。 ・事務職員を対象とする能力評価及び業績評価を継続実施し、給与・昇任等に反映させる。 ・教員職員を対象とする人事評価(自己評価・評価実施)の試行を実施するとともに、教員職員からの意見等を踏まえ、本格導入のための検証を行う。		市の制度に準じた能力評価及び業績評価を継続実施し、給与・昇任等に反映させた。 第3期中期計画期間中の本格実施までのロードマップに基づき、3回目の試行を実施するとともに、教員職員からの意見等を踏まえ、本格導入のための検証を行った。	B		重点	91
4 事務等の効率化・合理化に関する目標を達成するための措置 ・時代の変化と社会の要請に対応した教員職員の配置を機動的に実施する。 ・事務内容の検証により、外部委託化等の可能な事務のアウトソーシングを進める。 ・内部事務の効率化を図り、事務の適正な配分を行う。		・時代の変化と社会の要請に対応した学内組織を編成するため、各種委員会等へ教員職員を配置する。 ・予算編成過程を通じて、業務の外部化に向けて、事務内容の検証を行う。 ・予算編成過程を通じて、事務の効率化・合理化に向けて、事務処理等の検証を行う。		学内組織等への関与や授業時間割等を総合的に考慮しながら、各種委員会等へ教員職員を配置した。 事務内容の検証により、外部委託の検証を継続した。	B			92
5 広報活動の推進に関する目標を達成するための措置 ・ホームページ等を通じ、大学の現状についてのタイムリーな情報を発信する。 ・大学における人材情報、受託研究、調査情報等を各種広報媒体を通じて広く発信する。		・ホームページやSNSを活用し、イメージ動画を配信するとともに、大学行事、地域連携活動、公開講座等の情報を積極的に発信する。 ◇動画で見る青森公立大学(AFU MOVIE 3分30秒の動画2本)再生回数：合計1,088回(R4年度末時点)		ホームページやSNSを活用し、イメージ動画を配信するとともに、大学行事等の情報を積極的に発信した。 ◇動画で見る青森公立大学(AFU MOVIE 3分30秒の動画2本)再生回数：合計1,088回(R4年度末時点)	B		重点	93
					B			94
					B			95
					B			96
					B			97



第4 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置

※凡例 年度計画欄の下線：新規・数値目標又は重点的な取組

中期計画 実施事項及び内容	年度計画 実施事項及び内容	業務の実績(計画の進捗状況)	自己評価	自己評価の理由	備考	No.
	<p>・大学ホームページやマスメディア等の各種広報媒体を通じて、大学の基本的な情報を発信するとともに、本学の人材情報、受託研究、調査情報等については、ホームページで積極的に発信する。</p>	<p>大学ホームページやマスメディア等の各種広報媒体を通じて、大学の基本的な情報を発信するとともに、本学の人材情報、受託研究、調査情報等については、ホームページで積極的に発信した。</p> <p>&lt;各種広報媒体&gt;                      ◇大学ホームページ(国公立の大学・短期大学1,000校以上が参加する教育情報を公表するWebサイト)                      ◇プレスリリースの実施：3回</p>	B			98
第4 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置						
		S：年度計画をはるかに上回って実施している。	0	S、A又はBの割合		
		A：年度計画を上回って実施している。	0	100.0%		
		B：年度計画をおおむね実施している。	12			
		C：年度計画を十分に実施していない。	0	C又はDの割合		
		D：年度計画を実施していない。	0	0.0%		
		小項目別評価 計	12			

特記事項

なし

自己評価	備考

大項目別評価(中期計画の進捗状況)

自己評価	備考
4	<p>1 運営体制の改善については、法人経営と教学全般を包括する戦略会議を定期的開催するとともに、審議会等の委員等から大学運営に関する意見聴取の機会として、各種会議を開催したほか、設立団体の青森市長と法人役員の意見交換会を実施した。</p> <p>2 人材の確保については、教員職員の大学設置基準に定められた教員数を確保するため、不足している科目の教員公募を積極的に実施し、教授2名・准教授1名・講師1名を確保した。事務職員は、業務分担や組織体制等の検討を行い、管理職の業務や新規採用試験を実施した。</p> <p>3 人事評価の給与・昇任等への反映については、事務職員は市の人事制度に準じた人事評価を継続実施し、給与・昇任等に反映させた。教員職員はロードマップに基づき、3回目の試行を実施するとともに、教員職員からの意見等を踏まえ、本格導入のための検証を行った。</p> <p>4 事務等の効率化・合理化については、授業時間割等を考慮しながら、教員職員の配置や学内組織体制を整えとともに、事務の適正な配分・効率化のための業務内容の検証や外部化などの検証を行い、契約書・請書の汎用的な雛形を作成するなど必要に応じて見直しを行った。</p> <p>5 広報活動の推進については、ホームページや各種広報媒体を通じて、大学イメージ動画や学部・学科、入試制度、就職支援紹介動画等の配信をはじめ、各種大学イベントや地域貢献活動、教育研究活動等について、積極的に情報発信を行った。</p> <p>これらのことから、業務運営の改善及び効率化に係る年度計画は達成しており、中期計画の進捗状況は、順調であるものと評価する。</p>

第5 経営・財務内容の改善に関する目標を達成するための措置

※凡例 年度計画欄の下線：新規・数値目標又は重点的な取組

中期計画 実施事項及び内容		年度計画 実施事項及び内容		業務の実績(計画の進捗状況)	自己評価	自己評価の理由	備考	No.
<p>1 外部研究資金その他の自己収入の増加に関する目標を達成するための措置</p> <p>(1) 教員関連収入に関する目標を達成するための措置</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会情勢に配慮しながら、料金設定の適正性を検証する。</li> <li>・受験生確保のために高校訪問、オープンキャンパス、各種情報発信等を戦略的かつ積極的に行う。</li> </ul>		<p>・受験生確保のため高校訪問、オープンキャンパス、各種情報発信等を実施する。</p>		<p>受験生確保のため、延べ170校の高等学校を訪問し、入試情報の提供及び要望等の聴取を行った。また、オープンキャンパスを2回実施し、模擬講義を実施するとともに、教員及び進学相談等を実施し、高校生へ本学の情報を提供した。</p>	B			99
<p>(2) 研究関連収入に関する目標を達成するための措置</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・科学研究費補助金等の外部研究費の獲得増に向けて、情報の収集、提供、申請の奨励を図り、過去2年間(令和元年度～令和2年度)の平均以上の申請を行う。</li> </ul>		<p>・科学研究費補助金等の外部研究費の申請を11件以上行う。</p> <p>※11件は、第3期中期計画策定年度の直近2年度(令和元年度～令和2年度)の平均以上の件数</p>		<p>科学研究費補助金等の外部研究費の申請を11件行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇科学研究費補助金：5件</li> <li>◇公益財団法人青森芸術文化振興財団助成事業：6件</li> </ul>	B		数値目標	100
<p>(3) その他外部資金の獲得に関する目標を達成するための措置</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国、自治体、財団法人、民間企業等からの外部資金に関する情報収集をすすめ、資金獲得を図る。</li> <li>・各種寄附金等の獲得増に取り組み。</li> <li>・国際芸術センター青森や交流施設、大学の施設・設備の貸出しによる収入増を図るため、利用促進のPRを図る。</li> <li>・国際芸術センター青森の効果的な運営を維持するため、自己収入の獲得を図る。</li> </ul>		<p>・外部研究費の獲得増に向け、令和3年度の支援の方策(案)を横証し、必要に応じて見直しを横証する。</p> <p>・外部資金の獲得を推進するため、国、自治体、財団法人、民間企業等からの外部資金に関する情報収集し、教員などへの情報提供を行う。</p>		<p>外部資金の獲得を推進するため、国、自治体、財団法人、民間企業等からの外部資金に関する情報を収集し、教員等へ情報提供を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇科学研究費助成事業公募の周知：7～9月</li> <li>◇青森芸術文化振興財団公募の周知：10～11月</li> <li>◇文化庁(文化芸術振興費補助金) (ACAC)</li> <li>◇民間企業等の助成金公募 40件</li> <li>◇事業協力金募集の告知(ACAC) 随時</li> <li>◇国際芸術センター青森</li> <li>◇文化庁等8団体の助成金情報のうち5団体へ申請、4団体から採択を受けた。</li> </ul>	B			101
<p>・企業や同窓会等から寄附金等の獲得増を図るため、寄附金の制度について、甲や大学案内パンフレットへ掲載するとともに、訪問による寄附の働き掛けを行う。</p>		<p>・企業や同窓会等から寄附金等の獲得増を図るため、寄附金の制度について、甲や大学案内パンフレットへ掲載するとともに、訪問による寄附の働き掛けを行う。</p>		<p>奨学寄附金の制度をホームページや大学案内パンフレットで周知するとともに、訪問企業等に対して国際芸術センター青森年間事業協力金(寄附金)をお願いするチラシを配布し、寄附の働きかけを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>&lt; R2年度：1件(10万円)、R3～4年度：0件</li> <li>&lt; 国際芸術センター青森事業協力金 &gt;</li> <li>&lt; PR状況 &gt;</li> <li>・国際芸術センター青森ホームページ</li> <li>・県内企業等へのチラシの訪問配付 29社</li> <li>・展覧会等開催案内への同封 5,761件</li> <li>・展覧会時の募金箱設置 260,526円</li> </ul> <p>◇事業協力金収入状況 8者 67,000円</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年間事業協力金 193,526円</li> <li>・少額事業協力金</li> </ul>	B		重点	103

第5 経営・財務内容の改善に関する目標を達成するための措置

※凡例 年度計画欄の下線：新規・数値目標又は重点的な取組

中期計画 実施事項及び内容	年度計画 実施事項及び内容	業務の実績(計画の進捗状況)	自己評価	自己評価の理由	備考	No.
<p>2 経費の抑制に関する目標を達成するための措置</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員のコスト意識の涵養に取り組み、教育の質の維持向上を図りつつ業務の改善を進め、業務量及び経費の削減を進める</li> <li>・契約方法の競争的環境の確保等により管理経費の抑制に努めるとともに、効率化が見込める業務については外部委託化を進める</li> <li>・財務状況の分析に基づき、柔軟な予算組替えと効率的な予算執行に取り組み。</li> </ul>	<p>・ホームページや大学内へのパンフレット設置によるPRに加え、公共施設へのパンフレット設置や個別利用者への情報提供等により、国際芸術センター青森や交流施設、大学の施設・設備の貸出しによる取入増に向けた取組を行う。</p> <p>・国際芸術センター青森において、<u>展覧会時及び企業等への郵送や訪問による年単位の事業協力金(寄附金)のPR等を行い、自己取入の獲得を図る。</u></p>	<p>ホームページに施設的一般貸出案内を掲載するとともに、大学内や市民センターへパンフレット(ホームページへのQRコードを拡大)を設置するなど、個別利用者への情報提供等を行った。</p> <p>国際芸術センター青森ホームページ、チラシ、展覧会時の募金箱設置等により事業協力金のPRを行い、自己取入の獲得を図った。</p> <p>◇PR状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国際芸術センター青森ホームページ</li> <li>・県内企業等へのチラシの訪問配付 29社</li> <li>・展覧会等開催案内への同封 5,761件</li> <li>・展覧会時の募金箱設置 260,526円</li> <li>・年間事業協力金 8者 67,000円</li> <li>・少額事業協力金 193,526円</li> </ul>	B		重点	104
<p>3 資産の運用管理の改善に関する目標を達成するための措置</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資産の状況を点検・把握し、適切な管理を行い、より一層効果的な活用を推進する。</li> <li>・余裕資金の安全かつ効果的な運用を図る。</li> </ul>	<p>・予算編成過程を通じて、事務の効率化・合理化に向けて、事務内容の検証を行う。(再掲)</p> <p>・予算編成過程を通じて、業務の外部化に向けて、事務内容の検証を行う。(再掲)</p> <p>・効率的に予算を執行するため、支出の徹底した見直しによる事業の「選別と集中」を基本に予算編成を行うとともに、財務状況の分析を行う。</p>	<p>契約業務における契約書・請書の汎用的なひな型の作成により事務処理の見直しを行った。</p> <p>事務内容の検証により、外部委託の検討を継続した。</p> <p>令和4年度の予算執行に当たり、効率的に予算執行するたため、四半期ごとに資金管理実績を基に財務状況の分析を行い、支出内容の精査や業務改善・事務事業の効率化に努めた。</p> <p>令和5年度の予算編成においては、予算編成方針で定めた重点事業や新規事業に優先的に予算を配分するとともに、費用対効果の観点から事業の見直しを徹底するなどスクラップアンドビルドを行い、効果的な事業運営を推進する内容とした。</p>	B	再掲 No. 96	再掲 No. 95	106
<p>4 内部統制の強化に関する目標を達成するための措置</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・内部統制規程に基づき、内部統制の取組を着実に実施する。</li> <li>・教職員の法令遵守に対する意識の向上を図る。</li> </ul>	<p>・固定資産及び少額備品の現物確認を実施し、適正な資産管理を行う。</p> <p>・資金運用について、金融市場の動向等を重視しながら実施の可否及び運用方法等について検証を進める。</p> <p>・内部統制規程に基づき、各業務での職員による自己点検・自己評価並びに監事による監事監査及び内部監査を行う。</p>	<p>固定資産及び少額備品の現物確認を実施し、適正な資産管理を行った。</p> <p>毎年度実施している資産運用の検証をするために市場の動向を調査した。</p> <p>内部統制規程に基づき、日常的モニタリング(各業務の職員の自己点検・評価)及び独立した監事による監事監査及び内部監査を行った。</p>	B	重点	重点	105
	<p>・教職員の規範意識を向上させるため、令和3年度に改正した関係規程等に基づき、学内でのコンプライアンス研修を実施するとともに、学外研修への参加を促進する。</p>	<p>令和4年度の予算執行に当たり、効率的に予算執行するたため、四半期ごとに資金管理実績を基に財務状況の分析を行い、支出内容の精査や業務改善・事務事業の効率化に努めた。</p> <p>令和5年度の予算編成においては、予算編成方針で定めた重点事業や新規事業に優先的に予算を配分するとともに、費用対効果の観点から事業の見直しを徹底するなどスクラップアンドビルドを行い、効果的な事業運営を推進する内容とした。</p>	B	再掲 No. 95	再掲 No. 95	107
	<p>・教職員の規範意識を向上させるため、令和3年度に改正した関係規程等に基づき、学内でのコンプライアンス研修を実施するとともに、学外研修への参加を促進する。</p>	<p>固定資産及び少額備品の現物確認を実施し、適正な資産管理を行った。</p> <p>毎年度実施している資産運用の検証をするために市場の動向を調査した。</p> <p>内部統制規程に基づき、日常的モニタリング(各業務の職員の自己点検・評価)及び独立した監事による監事監査及び内部監査を行った。</p>	B		重点	108
	<p>・教職員の規範意識を向上させるため、令和3年度に改正した関係規程等に基づき、学内でのコンプライアンス研修を実施するとともに、学外研修への参加を促進する。</p>	<p>固定資産及び少額備品の現物確認を実施し、適正な資産管理を行った。</p> <p>毎年度実施している資産運用の検証をするために市場の動向を調査した。</p> <p>内部統制規程に基づき、日常的モニタリング(各業務の職員の自己点検・評価)及び独立した監事による監事監査及び内部監査を行った。</p>	B		重点	109
	<p>・教職員の規範意識を向上させるため、令和3年度に改正した関係規程等に基づき、学内でのコンプライアンス研修を実施するとともに、学外研修への参加を促進する。</p>	<p>固定資産及び少額備品の現物確認を実施し、適正な資産管理を行った。</p> <p>毎年度実施している資産運用の検証をするために市場の動向を調査した。</p> <p>内部統制規程に基づき、日常的モニタリング(各業務の職員の自己点検・評価)及び独立した監事による監事監査及び内部監査を行った。</p>	B		重点	110
	<p>・教職員の規範意識を向上させるため、令和3年度に改正した関係規程等に基づき、学内でのコンプライアンス研修を実施するとともに、学外研修への参加を促進する。</p>	<p>固定資産及び少額備品の現物確認を実施し、適正な資産管理を行った。</p> <p>毎年度実施している資産運用の検証をするために市場の動向を調査した。</p> <p>内部統制規程に基づき、日常的モニタリング(各業務の職員の自己点検・評価)及び独立した監事による監事監査及び内部監査を行った。</p>	B		重点	111
	<p>・教職員の規範意識を向上させるため、令和3年度に改正した関係規程等に基づき、学内でのコンプライアンス研修を実施するとともに、学外研修への参加を促進する。</p>	<p>固定資産及び少額備品の現物確認を実施し、適正な資産管理を行った。</p> <p>毎年度実施している資産運用の検証をするために市場の動向を調査した。</p> <p>内部統制規程に基づき、日常的モニタリング(各業務の職員の自己点検・評価)及び独立した監事による監事監査及び内部監査を行った。</p>	B		重点	112

第5 経営・財務内容の改善に関する目標を達成するための措置

※凡例 年度計画欄の下線：新規・数値目標又は重点的な取組

第5 経営・財務内容の改善に関する目標を達成するための措置	中期計画	年度計画	業務の実績(計画の進捗状況)	自己評価	自己評価の理由	備考	No.
	実施事項及び内容	実施事項及び内容					
第5 経営・財務内容の改善に関する目標を達成するための措置			S: 年度計画をはるかに上回って実施している。	0	S、A又はBの割合		
			A: 年度計画を上回って実施している。	0	100.0%		
			B: 年度計画をおおむね実施している。	14			
			C: 年度計画を十分には実施していない。	0	C又はDの割合		
			D: 年度計画を実施していない。	0	0.0%		
		小項目別評価 計	14				

特記事項

なし

42

大項目別評価(中期計画の進捗状況)

自己評価
<p>1 外部研究資金その他の自己収入の増加</p> <p>(1) 教育関連収入については、受験生確保のための高校訪問やオープンキャンパスの実施などに加え、様々な媒体による情報発信を行った。  【協定料】 令和4年度：936件・15,948千円 令和3年度：860件・14,734千円 令和2年度：850件・14,467千円</p> <p>(2) 研究関連収入については、科学研究費補助金等や受託研究・受託事業、青森学術文化振興財団等による外部資金を獲得した。  【科学研究費補助金等】 令和4年度：11件申請 令和3年度：12件申請 令和2年度：12件申請  【受託研究・受託事業】 令和4年度：2件・811千円 令和3年度：3件・1,422千円 令和2年度：2件・429千円  【学術文化振興財団助成金】 令和4年度：13件・3,904千円 令和3年度：6件・2,996千円 令和2年度：8件・2,004千円  【その他補助金等(ACAG)】 令和4年度：3件・3,600千円 令和3年度：7件・3,771千円 令和2年度：3件・4,042千円</p> <p>(3) その他外部資金については、国、自治体等から外部資金に関する情報収集・教員職員等への応募奨励をはじめ、大学施設等の貸出や英字寄附金制度について、ホームページや大学案内パンフレットでの周知及び市内公共施設へのパンフレットの設置など、収入増を図るためのPRを実施した。また、国際芸術センター青森の展覧会時及び年単位の事業協力金のPRとして、募金箱の設置や訪問企業等に対しての事業協力金のお問い合わせを配付するなど、自己収入の獲得を図った。  【事業協力金】 令和4年度：260,526円(内訳：年間事業協力金8者・67,000円/少額事業協力金193,526円) 令和3年度：271,197円(内訳：年間事業協力金8者・122,000円/少額事業協力金149,197円)</p> <p>2 経費の抑制については、令和4年度予算編成において、費用対効果の観点から事業の見直しを徹底するなどスクラップアンドビルドを行った。</p> <p>3 資産の運用管理については、固定資産及び少額備品の現物確認による適正な資産管理を実施するとともに、資金運用のための市場動向を調査した。</p> <p>4 内部統制の強化については、自己評価並びに監事監査及び内部監査を実施するとともに、教職員の法令遵守に対する意識向上のため、学内研修の実施や学外研修への参加を促進した。</p> <p>これらのことから、経営・財務内容の改善に係る年度計画は達成しており、中期計画の進捗状況は、順調であるものと評価する。</p>

4

第6 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するための措置

※凡例 年度計画欄の下線：新規・数値目標又は重点的な取組

u003Cp>

No.	中期計画		年度計画		業務の実績(計画の進捗状況)	自己評価	自己評価の理由	備考	
	実施事項及び内容	実施事項及び内容	実施事項及び内容	実施事項及び内容					
113	1 評価の充実に関する目標を達成するための措置 ・中期計画や年度計画の進捗管理を行い、適切な自己点検及び自己評価を実施する。 ・第三者機関による定期的な外部評価を受ける。	中期計画及び年度計画の進捗管理を定期的に行い、その結果を事務局内で共有する。 ・令和3年度の業務の実績について、自己点検・自己評価を実施し、第三者機関による外部評価を受ける。 ・公益財団法人大学基準協会による2018年度の本学に対する大学評価について、4点の改善課題に対する改善報告書を提出する。	業務の実績(計画の進捗状況) 中期計画は、次年度計画を検討する1～2月頃に進捗管理を実施し、必要な計画内容を令和5年度計画に反映させた。年度計画は11月以降、各チームにおいて繰り返し進捗状況を確認し、事務局内で共有することで、各取組の計画的な実施に努めた。	B					
114					令和3年度の業務の実績について、自己点検・自己評価を実施し、青森市地方独立行政法人評価委員会(第三者機関)による外部評価を受けた。	B			
115					公益財団法人大学基準協会に対して、2018(旧30)年度大学認証評価における4点の改善課題について、令和4年7月26日に改善報告書を提出した結果、全ての課題が改善されたことが認められた。(令和5年3月30日結果通知)	B		新規 重点	
116	2 評価結果の活用に関する目標を達成するための措置 ・評価結果を大学運営の改善に活用する。 ・PDCAサイクルによる継続的な改善を図る。 ・評価結果や改善策等については、教職員がその情報を共有し、全学的な改善に向けた意識の向上を図る。	自己評価結果及び外部評価結果等を大学運営の改善に活用し、継続的な改善を図る。 ・評価結果や改善策等を学内会議等により教職員に情報提供する。	業務実績の自己評価結果及び外部評価結果等を踏まえ、令和4年度の大学運営の改善に活用し、継続的な改善を図った。	B					
117					青森市地方独立行政法人評価委員会の評価結果及び組織、業務運営等に係る改善事項等への反映状況について、ホームページで公表するとともに、学内会議で情報提供・共有した。	B			
118	3 情報提供に関する目標を達成するための措置 ・法人の経営及び財務状況、大学の教育、研究及び地域貢献等に対する自己評価、外部評価等の改善策について、ホームページ等において公表する。 ・個人情報保護の保護に努めるとともに、外部からの情報開示の請求には迅速に対応し、透明性の確保を図る。	個人情報保護の保護に留意しながら、ホームページ等を通じて法人の財務状況や業務実績等を公表する。 ・個人情報保護の保護に努めるとともに、外部からの情報開示の請求には迅速に対応し、透明性の確保を図る。	令和3年度の各財務状況や業務実績、令和4年度予算及び各種学内会議に関する情報について、個人情報の保護に留意しながら、ホームページ等で公表した。 個人情報保護の保護に努めるとともに、市に準じた情報公開制度により、透明性の確保を図った。 なお、外部からの情報開示請求はなかった。	B					
119					新法に基づき、青森市の制度に準じて、本学の個人情報保護に係る規程、要綱等の改正を行った。	B			
120					新法に基づき、青森市の制度に準じて、本学の個人情報保護に係る規程、要綱等の改正を行った。	B		新規 重点	
第6 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するための措置									
S: 年度計画をはるかに上回って実施している。						0	S、A又はBの割合		
A: 年度計画を上回って実施している。						0	100.0%		
B: 年度計画をおおむね実施している。						8			
C: 年度計画を十分には実施していない。						0	C又はDの割合		
D: 年度計画を実施していない。						0	0.0%		
小項目別評価 計						8			

43

第6 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するための措置

※凡例 年度計画欄の下線：新規・数値目標又は重点的な取組

中期計画 実施事項及び内容	年度計画 実施事項及び内容	業務の実績(計画の進捗状況)	自己評価	自己評価の理由	備考	No.
------------------	------------------	----------------	------	---------	----	-----

特記事項						備考
なし						

大項目別評価(中期計画の進捗状況)						自己評価
<p>1 評価の充実については、中期計画や年度計画の進捗管理を定期的に行い共有するとともに、法人の業務実績について、自己点検・自己評価を実施し、第三者機関による外部評価を受けた。</p> <p>2 評価結果の活用については、自己評価結果及び外部評価結果を大学運営に反映させ、PDCAサイクルによる継続的な改善を図るとともに、改善事項等の反映状況について、教職員への情報共有・ホームページ等で公表し、全学的な改善に向けた意識の向上を図った。</p> <p>3 情報提供については、個人情報保護の保護に留意しながら、法人の業務実績や財務状況等に係る資料・情報をホームページにおいて公表し、透明性の確保を図った。</p> <p>これらのことから、自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に係る年度計画は達成しており、中期計画の進捗状況は、順調であるものと評価する。</p>						4

第7 その他業務運営に関する重要目標を達成するための措置

※凡例 年度計画欄の下線：新規・数値目標又は重点的な取組

u

中期計画 実施事項及び内容		年度計画 実施事項及び内容		業務の実績(計画の進捗状況)	自己評価	自己評価の理由	備考	No.
<p>1 施設設備の整備・活用等に関する目標を達成するための措置</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インフラ長寿寿命計画に基づき、定期的な点検や診断による効果的な修繕・更新を行う。</li> <li>・良好な教育環境を保持するため、本学施設・設備の維持管理を適切に行う。</li> <li>・地域貢献として図書館等の大学施設を開放し、活用の充実を図る。</li> <li>・国際芸術センター青森において、青森市の次世代を担う小・中学生を対象とした校外学習受入れなどの教育プログラムの実施や、広く市民を対象とした芸術作品の展示及びワークショップ、青森アクトミュージアム5館連携協議会の取組への参画により施設利用の促進を図る。</li> </ul>		<p>・学内の施設・設備について、定期的な点検や診断により、緊急性及び必要性を勘案しつつ、インフラ長寿寿命計画に基づく効果的・効率的な整備を行う。</p> <p>・良好な学習環境や教育研究環境を確保するため、講義室の計画機器や映像・音響機器の更新及び図書館の環境整備を行う。(再掲)</p>		<p>インフラ長寿寿命計画に基づき、国際芸術センター青森(AGAC)中央監視装置等の更新工事を実施したほか、学内の施設・設備の定期点検等を踏まえ、緊急性及び必要性の高い維持修繕工事を実施するなど、効果的・効率的な整備を行った。</p>	B		重点	121
<p>・国際芸術センター青森において、青森市の次世代を担う小・中学生を対象とした校外学習受入れなどの教育プログラムの実施や、広く市民を対象とした芸術作品の展示及びワークショップ、青森アクトミュージアム5館連携協議会の取組への参画により施設利用の促進を図る。</p>		<p>・良好な学習環境や教育研究環境を確保するため、講義室の計画機器や映像・音響機器の更新及び図書館の環境整備を行う。(再掲)</p> <p>・「学省導入演習」内で新人生向けガイダンスを実施(9コマ担当)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・IF自習室Bの改装(10月)</li> <li>・図書貸出専用バッグの運用開始(12月)</li> <li>・月にテーマを決めた図書展示等の実施(通年)</li> </ul>		<p>良好な学習環境や教育研究環境を確保するため、講義室や図書館の環境整備を行った。</p> <p>◀R4年度実績▶</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◊202・204・422・423講義室のプロジェクト、ディスプレイ、スクリーン、音響等の設備更新</li> <li>◊図書館</li> <li>・「学省導入演習」内で新人生向けガイダンスを実施(9コマ担当)</li> <li>・IF自習室Bの改装(10月)</li> <li>・図書貸出専用バッグの運用開始(12月)</li> <li>・月にテーマを決めた図書展示等の実施(通年)</li> </ul>	B		再掲 No.17	122
<p>・地域住民及び地域によるイベントや事業の実施に對し、施設を開放する。</p>		<p>・図書館、交流施設、大学の施設・設備等について、一般貸出のPRを行い、利用促進を図る。</p>		<p>ホームページに施設的一般貸出案内を掲載するとともに、大学内や市民センターへパンフレット(ホームページへのQRコードを添付)を設置するなど、PRを行い、利用促進を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◊図書館</li> <li>・各種イベント内容(図書館ポップコンテンツ等)のほか、蔵書検索、貸出ランキン、館内機器導入情報、新着案内などをホームページに掲載。</li> <li>・図書館の利用方法を紹介する動画を、学生が企画立案・作成し青森市公式YouTubeチャンネルにて配信。</li> </ul>	B			123
<p>・国際芸術センター青森において、小・中学生等を対象とした創作体験等の教育プログラムの実施や、広く市民を対象とした展覧会、ワークショップなどを開催し、来場者促進を図る。</p>		<p>・地域住民及び地域によるイベントや事業の実施に對し、施設を開放する。</p>		<p>講堂、交流ホール、国際交流ハウス、講義室、体育施設等を一般開放した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◊交流施設(講堂、交流ホール、国際交流ハウス)179件 4,377,265円</li> <li>◊講義室・体育施設 215件 1,655,004円</li> <li>◊国際芸術センター青森 44件 506,506円</li> </ul> <p>◊モヤヒルズで開催されたエフエム青森開局35周年イベントの実施に当たり、駐車場を無料で開放した。</p>	B			124
<p>・国際芸術センター青森において、小・中学生等を対象とした創作体験等の教育プログラムの実施や、広く市民を対象とした展覧会、ワークショップなどを開催し、来場者促進を図る。</p>		<p>・国際芸術センター青森において、小・中学生等を対象とした創作体験等の教育プログラムの実施や、広く市民を対象とした展覧会、ワークショップなどを開催し、来場者促進を図る。</p>		<p>創作体験等の教育プログラムの実施や市民を対象とした展覧会、ワークショップなどを開催し、来場者促進を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◊創作体験事業 参加小・中学校等 26校 参加児童数 1,407人</li> <li>◊展覧会 開催回数：3回 来場者数：5,894人 開催会でのワークショップ・交流プログラム 開催回数：39回 参加者数：582人</li> </ul>	B			125

第7 その他業務運営に関する重要目標を達成するための措置

※凡例 年度計画欄の下線：新規・数値目標又は重点的な取組

中期計画 実施事項及び内容	年度計画 実施事項及び内容	業務の実績(計画の進捗状況)	自己評価	自己評価の理由	備考	No.
2安全管理に関する目標を達成するための措置 ・防災対策と危機管理体制を強化する。 ・学生、教職員の健康の保持増進に努め、定期的な健康診断を実施するとともに、健康相談や健康管理指導を図る。 ・衛生委員会を運営し、学内の安全衛生に関する検証・報告を行う。 ・学内の情報システムに係る管理保護規程に基づき、ソフトウェアの不正使用防止や情報セキュリティの向上を図る。 ・感染症情報を随時収集し、周知するとともに、必要な対策を講じる。	・青森アートミュージアム5館連携協議会へ参画し、共同Webサイト運営、アートのリズム誘客等のPR事業を実施し、国際芸術センター青森への来場者促進を図る。 ・消防訓練等を実施するとともに、自衛消防隊の体制を維持する。 ・学生、教職員の健康診断を実施するとともに、要精密検査対象者への受診勧奨を行う。 ・ストレスチェックを実施し、教職員の健康保持の増進を図る。 ・衛生委員会を毎月開催し、学内における安全衛生に関する検証や情報共有を図る。	青森アートミュージアム5館連携協議会に参画し、共同Webサイトの運営等の誘客促進を図る事業を実施し、国際芸術センター青森への来場者促進を図った。 ◇実施事業 ・雑誌等特集記事 6誌 ・新聞掲載 2誌 4回 ・Web雑誌等特集記事 4サイト ・PR事業により構築されたアートのリズム商品による来場実績 (ACAC来場者) 5社、6回、延べ114名来場	B			126
	・消防訓練等を実施するとともに、自衛消防隊の体制を維持する。 ・学生、教職員の健康診断を実施するとともに、要精密検査対象者への受診勧奨を行う。 ・ストレスチェックを実施し、教職員の健康保持の増進を図る。 ・衛生委員会を毎月開催し、学内における安全衛生に関する検証や情報共有を図る。	教職員及びび学生を対象とした防災訓練を例年どおり2回実施したほか、危機管理マニュアルの更新を行い、自衛消防隊の体制を維持した。 ◇避難訓練(7/6、11/24)：延べ参加人数 約400人 ※11/24は降雨のため、職員のみで実施	B			127
	・学生、教職員の健康診断を実施するとともに、要精密検査対象者への受診勧奨を行う。 ・ストレスチェックを実施し、教職員の健康保持の増進を図る。 ・衛生委員会を毎月開催し、学内における安全衛生に関する検証や情報共有を図る。	学生、教職員の健康診断を医療機関へ委託して実施するとともに、要精密検査対象者への受診勧奨を早めに行うほか、健康診断未受診者への受診勧奨を複数回にわたって行った。	B			128
	・ストレスチェックを実施し、教職員の健康保持の増進を図る。 ・衛生委員会を毎月開催し、学内における安全衛生に関する検証や情報共有を図る。	ストレスチェックを医療機関へ委託して10月に実施するとともに、その結果を12月に個人へ配付したほか、全体の結果を1月の衛生委員会で報告し、健康保持の増進を図った。	B			129
	・衛生委員会を毎月開催し、学内における安全衛生に関する検証や情報共有を図る。	衛生委員会を毎月開催し、学内における安全衛生に関する検証や情報共有を図った。 ◇検証・情報共有：大学事務局、大学保健室所屬の看護師及び衛生管理者からの報告(定例報告・随時報告)に基づき、産業医(=学校医)を含め検証・情報共有 ◇開催日(月1回)：原則毎月第2水曜日	B			130
	・パスワードやUSBメモリの適正管理等により、情報セキュリティの向上を図る。 ・感染症情報を随時収集し、学生、教職員へ周知するとともに、必要に応じて学内会議等で対策を検討し、必要な対策を講じる。	パスワード及びUSBメモリの管理の具体的な手順を明記した「情報セキュリティポリシー」に則り、情報セキュリティの向上を図った。	B			131
	・新型コロナウイルス感染症への対処が終了するまで、危機管理対策本部による対応を継続する。	国、県、市等からの感染症に関する通知等による情報収集を行い、学生、教職員へ周知するとともに、必要に応じて学内会議等で対策を検討し、必要な対策を講じた。 ◇ワクチン接種等に係る授業公欠の取扱い ◇感染拡大状況に応じた部活動等の休止 ◇県外からの非常勤講師等の抗原検査の実施	B		重点	132
	・新型コロナウイルス感染症への対処が終了するまで、危機管理対策本部による対応を継続する。	国、県、市等からの感染症に関する通知等による情報収集を行い、新型コロナウイルス感染症に係る危機管理対策本部による対応を継続した。	B		重点	133



第7 その他業務運営に関する重要目標を達成するための措置

※凡例 年度計画欄の下線：新規・数値目標又は重点的な取組

u003c/div>

中期計画 実施事項及び内容		年度計画 実施事項及び内容		業務の実績(計画の進捗状況)	自己評価	自己評価の理由	備考	
<p>3 ユニバーサル社会の実現に向けた意識向上に関する目標を達成するための措置</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生、教職員に対し、ユニバーサル社会の実現に向けた人権意識の向上を認識させるとともに、各種ハラスメントや人権侵害を抑制するための防止体制と相談体制の強化を図る。</li> <li>・ハラスメント防止委員会を運営し、学内のハラスメントに関する検証・報告を行う。</li> <li>・障害を理由とする不当な差別的取扱いがないように合理的配慮の提供を行う。</li> </ul>		<p>・ハラスメントに対する相談窓口を明確化するとともに、リーフレットを配付し、学生、教職員のユニバーサル社会の実現に向けた人権意識の向上を図る。</p> <p>・ハラスメント防止対策委員会を開催し、学内におけるハラスメントについての検証や情報共有を図る。</p> <p>・障害のある学生及び教職員等に対して、合理的配慮の提供を行う。</p>		<p>学生、教職員を対象に、ハラスメント防止の取組やハラスメントに係る相談窓口を明記した「ハラスメントに関する手引き」の配付、ポータルサイト等への掲載及びハラスメント相談窓口や相談員の連絡先の学内掲示を行い、人権意識の向上を図った。</p> <p>ハラスメント防止対策委員会を開催し、学内におけるハラスメントについての検証や情報共有を図るとともに、ハラスメント非案について適切に対応した。</p> <p>障害者差別防止・解決委員会において、学上の配慮が必要な学生に対する支援等について検討し、支援・配慮を行うとともに、学生との定期的な面談等を通じて必要な配慮や支援を行った。(年4回面談を実施)。</p> <p>◇障害者差別防止・解決委員会(4/27、6/6、7/8)</p> <p>◇学上の配慮が必要な学生：新規3名、継続9名</p>	B	B		134
<p>第7 その他業務運営に関する重要目標を達成するための措置</p>					B		重点	

47

特記事項		備考
<p>青森公立大学生を対象に、青森市長からの講話を交えながらの体験型の防災訓練を実施し、学生自身の避難場所等の確認を行うとともに、防災意識の向上を目的として、「青森公立大消防災体験会〜体験型防災訓練〜」を開催した。(10/12 青森公立大体育館 参加学生数 47名(1〜3年生))</p>		

大項目別評価(中期計画の進捗状況)		自己評価
<p>1 施設設備の整備・活用等については、インフラ長寿命化計画に基づき、国際芸術センター青森中央監視装置等の更新工事の実施や202・204・422・423講義室のプロジェクト・ディスプレイ・スクリーン・音響等の設備更新を行い効果的・効率的な整備を行った。また、図書館では、自習室Bの改装や図書貸出専用バックの運用、月毎にテーマを決めた図書展示等を実施するなど、良好な学修環境や教育研究活動を確保するための環境整備を行った。</p> <p>2 安全管理については、避難訓練の実施や危機管理マニュアルの更新による防災・危機管理体制の強化、健康診断やストレスチェックの実施による健康保持の増進に努めるとともに、情報セキュリティポリシーに則り、保有個人情報保護の適正な管理を行った。また、新型コロナウイルス感染症の発生や危機管理に関する手引きの配付、ポータルサイト等への掲載、相談窓口や相談員の連絡先の学内掲示、ハラスメント非案への適切な対応を行い、人権侵害の防止や相談体制等の強化を図るとともに、障害者差別防止・解決委員会において学上の配慮が必要な学生に支援・配慮を行った。</p> <p>3 ユニバーサル社会の実現については、学生、教職員に対して、ハラスメント防止対策に関する手引きの配付、ポータルサイト等への掲載、相談窓口や相談員の連絡先の学内掲示、ハラスメント非案への適切な対応を行い、学上の配慮が必要な学生に支援・配慮を行った。</p> <p>これらのことから、その他業務運営に係る年度計画は達成しており、中期計画の進捗状況は、順調であるものと評価する。</p>		4